

平成30年度
阪神南ふるさとづくり応援事業

事例集



兵庫県阪神南県民センター

目次

	事業名	団体名	頁
1	学生目線で「地域の魅力」を住民に発信し、まちの活性化を目指す地域新聞発行事業	特定非営利活動法人なごみ	1
2	多世代交流体験活動と地域の人材を活用した活性化運動	瓦木地区青少年愛護協議会	4
3	大庄地域3世代いきいき交流 ふるさと夏まつり	ルミエール千鳥福祉協会	6
4	～尼の川で一斉川遊び～ あまがさきの川であそぶ？えっ！ホンマに？！	あまっこ川あそびサミット	9
5	「じぶんのまんまでええねんで」地域アートワークショップ	特定非営利活動法人スマイルひろば	12
6	大庄地区カラス対策事業	市民運動大庄地区推進協議会	15
7	「尼崎市立花地域に子育ての輪を広げよう」事業	立花「結's」	17
8	きたろく里山音楽祭2019	県民交流広場・北六甲台校区協議会	20
9	第9回『長洲ふれあいフェスティバル』	長洲社会福祉連絡協議会	23
10	芦屋市浜風小学校区域の防災計画の策定及び住民皆が参加できるように工夫された訓練の計画と実施	芦屋浜東地域自主防災会連絡協議会	25
11	住民が作る防災マップ作成と情報の共有	西宮北口町自治会	28
12	「魅力ある園田のランドデザイン・郷土創生を思案する」	園田まちづくり委員会	31
13	多世代がふれあい、文芸に親しむ広場づくり・交流広場「すまいる浜風」	交流広場「すまいる浜風」運営委員会	49
14	名和夏祭り	名和小学区まちづくり協議会準備会	52
15	祭りを通じたコミュニティ形成及び地域の活性化事業	大市秋の例大祭保存継承実行委員会	55
16	深津子どもの日のつどい	深津地区青少年愛護協議会	57
17	第10回 写真楽園Club SEI-G 写真展 2018	写真楽園 Club SEI-G	59
18	日本の伝統文化に触れてみよう はじめての生け花体験	精道コミュニティスクール	61
19	KANSAI EXCITE KIDS DANCE CONTEST	尼崎あきんど倶楽部	63
20	健康と美容、誰もが「元気で美しく澁刺と！学んで活かす！」を総合テーマとして多世代交流のコミュニティづくりを目指す	生涯学習インストラクターの会 阪神ブロックほっこり和み	65
21	地域で面白いことをやってみよう！～地域団体の役割とこれからの考える～	西宮市地域団体のあり方検討グループ	67

事業報告書

事業名	学生目線で「地域の魅力」を住民に発信し、まちの活性化を目指す『地域新聞の発行事業』
団体名	特定非営利活動法人なごみ
活動地域	1 (西宮) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	鳴尾東地区コミュニティ協議会・鳴尾東地区社会福祉協議会 鳴尾東地区青少年愛護協議会・関西学院大学人間福祉学部藤井ゼミ
事業の 目的・趣旨	本事業を実施する目的の1つは、高齢化が進む地域の中で、大学生と住民が異世代で交流する機会をつくり、双方の学びと刺激を生活の中に生み出すことです。2つ目は、地域住民が日々取り組んでいる活動や自治活動の姿は、あまり住民に知られておらず、また地域の“魅力”を考える機会がないのが現状であり、本事業によってよそ者（第3者）である大学生の強みを活かし、地域の魅力を住民と再発見することで、地域活動のエネルギー（活性化）とすることが本事業の目的です。
事業内容	<p>▶地域新聞の製作・発行・配布</p> <p>本法人と関西学院大学人間福祉学部（藤井研究室）が連携し、地域新聞『なごみ新聞』を年3回製作・発行しました。平成29年度途中まで、地域で発行されていた新聞（なごみ新聞）を既存活動とし、大学生との連携と体制を変えて実施しました。</p> <p>【発行】①7月 ②11月 ③3月 【発行枚数】①4,500枚 ②4,500枚 ③2,000枚 ※配布は鳴尾東地区コミュニティ協議会での承認があり全戸配布を実施。</p> <p>▶学生による地域活動参加・取材・記事の校正</p> <p>関西学院大学藤井ゼミの学生8名が中心となって（本法人が地域団体をコーディネート）ふるさと祭りや灯ろう流し、流しそうめん大会、震災メモリアルイベントなど、地域活動に参加しながら、活動の取材を行い、紙面のレイアウトや、文章の校正等まで学生ならではの視点で新聞製作を行い、住民に活動を発信しました。新聞取材を通して、地域活動に参加している住民（子どもから高齢者まで）と関わり、活動のお世話役となる担い手の方の想いにふれることで、学生にとっては大学の授業では学べない経験となりました。また若い大学生が地域活動のお手伝いに入ったことで、地域活動がさらにパワーアップし、それぞれの活動自体も例年以上に盛り上がりを見せました。</p> <p>また地域では、新聞に大きく写真（カラー）を掲載したり、学生らしい目の引くデザインを取り入れたことで多くの反響があり、地域や行事の魅力を再認識する機会となりました。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	4	16	関西学院大学	ゼミ内説明・会議	2	14
	30	5	29	地域	見学・記事構成打ち合わせ	3	16
	30	6	11	関西学院大学	打ち合わせ・取材準備	2	15
	30	6	12	地域内各所	地域内活動参加・取材(複数回)	1	8
					地域内活動参加・取材(複数回)	2	8
	30	6	23	地域内各所	プロジェクト会議	2	4
					7月号発行【第1回目】	2	0
	30	6	27	地域	打ち合わせ	1	4
	30	7	15	地域	打ち合わせ	1	5
	30	7	16	関西学院大学	取材・活動参加	1	2
	30	7	30	関西学院大学	取材・活動参加	1	2
	30	8	5	福祉センター	取材・活動参加	2	6
	30	8	26	上田公園	取材・活動参加	2	6
	30	8	28	鳴尾東小学校	取材	1	4
	30	8	29	鳴尾東小学校	打ち合わせ	1	4
	30	9	8	地域	取材	1	3
	30	10	1	関西学院大学	11月号発行【第2回目】	2	0
	30	10	11	地域	完成版受け渡し・会議	1	7
	30	10	27	地域	取材・活動参加	3	5
	30	10	28	関西学院大学	取材・活動参加	2	3
	30	11	11	地域	取材・活動参加	2	3
	30	12	2	鳴尾東公民館	取材・活動参加	2	3
	31	1	14	鳴尾東小学校	打ち合わせ	1	6
	31	1	20	鳴尾東公民館	取材・活動参加	2	2
	31	2	9	関西学院大学	事業報告会	4	6
	31	2	11	地域	打ち合わせ	2	5
31	2	18	鳴尾東公民館	3月号発行【第3回目】	1	0	
31	3	24	地域				
31	3	25	地域				

<p>事業効果</p>	<p>◆まず、事業開始前に目標としていた、“「異世代」「エネルギー」「第3者の視点」という強みを持った大学生が加わることで、地域新聞が持つ魅力と住民へ与えるエネルギーを拡大させる”ことが達成されたことが大きな成果と言える。大学生が新聞を作成するだけでなく、地域活動に関わることで、若い学生と触れ合った住民が自分たちの活動を見つめ直し、またモチベーションのアップにつながった姿をいくつも見る事ができた。これは今後の地域の活性化にも繋がるものだと考えている。</p> <p>◆地域内での「なごみ新聞」の認知度が格段に高まった。住民からの反響も大きく、「次年度以降も是非続けてほしい」「次はこの活動を取り上げてほしい」などの要望も入っていることから、大学生との連携を次年度も継続して実施することが決定した。</p> <p>◆地域新聞発行を通して、住民が自分たちの地域・活動の魅力を再認識できた。これは取材協力を頂いた方へ完成した新聞を届けた際に、どの団体（者）もおっしゃられていた事であり、大きな成果と言える。</p>
<p>今後の展望</p>	<p>今後も継続して、地域新聞を発行することはもちろん、記事の内容やテーマを住民からの意見を反映する形で発展させていきたいと考えている。特に普段は自治会活動や、福祉活動でピックアップされない・評価されにくい（草の根活動）を学生目線で見つけて取り上げていけたらと考えている。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	多世代交流体験活動と地域の人材活用した活性化運動
団体名	瓦木地区青少年愛護協議会
活動地域	<ol style="list-style-type: none"> ① (西宮) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	NPO法人人と地域の活動応援団ぽっかぽか・瓦木スポーツクラブ 21
事業の 目的・趣旨	多世代交流の機会となることを第一とし、多世代で共通の活動や伝承文化の継承や披露を目指す。
事業内容	<p>多世代で人気の将棋を子どもたちが地域の人材から学び、学びの成果を発表する場として将棋大会を開催しました。昨年度開催の将棋教室の子どもたちも参加し、地域の2小の1年生から5年生までの18名がトーナメント方式で15分間の試合をしました。どの試合も白熱した試合で講師の方による判定の勝負も何盤もありました。家でお父さんと将棋をしたり、また、お盆に帰省し、おじいちゃんと将棋をたくさんしたと嬉しそうに話す子どももいて、多世代での交流ができました。</p> <p>子ども神輿を2基製作。1基は小学生からデザインを募集し製作を多世代で行った。デザインは瓦木小学校のキャラクターである“かわラッキー”を元にすることに決まり、元ある樽神輿を改造し、つくりあげた。もう1基は中学生がデザインから考え製作を行った。地域の方から盆踊りを教えてもらい、瓦木わくわくまつりにおいて、盆踊りの披露と神輿パレードをあわせておこなった。また、子ども和太鼓教室と協力し地域の盆踊りを活性化し盛り上げた。</p> <p>また、神輿パレードの時には、校区にある西宮市立深津中学校総合文化部の生徒や先生方にJハープの演奏を披露していただいたり、瓦木スポーツクラブ21に所属するF・Kバトンチームにバトンの披露をしてもらい、地域全体で盆踊りやおまつりを盛り上げた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	6	2	瓦木小学校 図書室	将棋教室	4	11
			9				
			16	瓦木公民館	盆踊り練習会	5	20
			23				
			7 19				
7 19	瓦木小学校 深津中学校	神輿作り	4	20			
20			2	14			
7 29	瓦木小学校 体育館ほか	スポーツクラブ 21・小中高 生による和太鼓盆踊りと神 輿パレード	8	50			
8 4	瓦木公民館 第4集会室・ ぼっかぼかひろば	子ども将棋大会	5	18			
事業効果	<p>将棋教室について、地域の2つの小学校から参加してくれた小学生同志の交流を深め、また、多世代の講師の方とも将棋を通して深く交流することができました。</p> <p>将棋大会では、接戦で、勝敗が判定となるものも多く、その中でたくさんの事を子どもたちは学んだようです。</p> <p>神輿については、1基を深津中総合文化部がデザインから製作までを行い、もう1基は瓦木小学校の生徒の提案で小学校のキャラクターである、'かわラッキー'をデザインしたものにしようという決まり、製作も小学生が花紙を折るなどした。</p> <p>盆踊りも地域の民謡の会の方に直接ご指導いただき、みやたん音頭・瓦木おどりなど地域の踊りも上手に踊ることができるようになった。</p> <p>披露の場である瓦木わくわくまつりが、台風13号の影響で順延、体育館でのイベント開催となりましたが、盆踊り・神輿パレードともに盛況に行うことができました。</p>						
今後の展望	<p>今年度、台風の影響で急遽、提灯や櫓の設置をおこなわず、開催時間を20時半までを19時半までとして、電気設備のない状態での開催としましたが、大きなトラブルもなかったため、最も支出のかかる電気設備の縮小ができ、来年度以降のまつりの継続も開催時間等を再検討し、継続できそうな展望がひらけました。</p> <p>今回は順延で中学生のお手伝いがなければ開催できない状態でした。このように多世代での地域の活性化がはかれる行事の継続を今後も継続するために地域の方に協力を働きかけていきたいと思っております。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	大庄地域3世代いきいき交流 ふるさと夏まつり
団体名	ルミエール千鳥福祉協会(町会)
活動地域	① (尼崎) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	大庄中央社会福祉連絡協議会
事業の 目的・趣旨	<p>約60年の歴史を持つUR都市機構(旧公団)団地。年々約15%の住民が入れ代り、40%近くが表札を掲げず、無関心、隣近所のつながりも希薄なのが当たり前、と言うのが団地という所。町会ではこれまでも多様な催しで、まちづくりを進めてきた。コミュニティづくりを進める上で夏まつりは誰もが参加しやすく最も効果的。このまつりを通じて、住民同士のつながりを強め、子どもたちに楽しい思い出を残してやりたい。今回は近隣の福祉協会(7つの町会)・大庄中央社会福祉連絡協議会と共同することで、高齢化がどんどん進み、年々活動力の衰える地域と組織の活性化を目指すことも併せて追求した。</p>
事業内容	<p>すべて住民手作りの夏まつり。(全体像はチラシ及びプログラムを参照) 実施日 2018・7・28(土)午後4:00~9:00 ルミエール千鳥団地広場</p> <p>◎舞台催し…*オープニング太鼓(小学生21人による和太鼓) *腹話術とバルーンアート(キャンディ佐藤) *シンガーソングライター・かわさきゆたかオンステージ *ヒップホップダンス(12人が踊る) *武庫川たんぽぽ大いに歌う、みんな一緒に歌おう *ギャル大声コンテスト *みんなで踊ろう阿波踊り(21人の阿波踊りグループ颯が模範演技) *お楽しみ抽選会 *花火大会</p> <p>◎子どもも大人もお楽しみコーナー *輪投げ *鉄砲射的 *金魚・スーパーボールすくい *子供当ても *ボウリング的当て *プロによる似顔絵コーナー *風船アートみんなで創ろう (*ニミ消防車は台風接近で出動中止)</p> <p>◎食べ物コーナー *たこ焼き *カレー *焼きそば *フランクフルト *かき氷 *焼き鳥 *おでん *飲みもの</p> <p>これまでのルミエール千鳥町会単独の夏まつりでは、約500~600人の参加、手伝い要員70人であったが、今回は1,000人弱が参加、手伝い要員も110人を超えた。</p> <p>台風が接近する中で、開催が危ぶまれたが、タイムスケジュールを一部前倒ししながら進行、全体として大いに盛り上がった。閉会后急いでテントの撤収などのあと片づけを行い、その頃から雨風が来はじめました。無事完遂で、大成功!</p>

	年 月 日	場所	実施内容	参加人数	
				スタッフ	参加者
事業経過	30 6 1～		ポスター掲示、チラシ配布開始		
	30 6 1～		手伝い要員登録呼びかけ開始		
	30 6 中		近隣団体・企業に協賛申し入れ		
	30 6 24	団地集会所	町会役員会で日程・進行論議	15	
	30 6 25	大庄福祉会館	大庄中央社会福祉連絡協議会理事会で取り組みを論議	20	
	30 6 下		「お買い物券」前売り開始		
	30 7 15	団地集会所	住民実行直前委員会・役割分担		
	30 7 中		住民に「買い物券」無料配布		
	30 7 17		子どもに「買い物券」無料配布		
	30 7 23		住民参加テント(大)4張組み立	12	
	30 7 23		住民参加・花火の仕込み作業	10	
	30 7 24		資機材総点検・コーナー分類	20	
	30 7 25		提灯・風船・垂れ幕つり込み	18	
	30 7 26		たこ焼き・焼きそばテスト焼き	12	
	30 7 28		午後3時からスタッフ打合せ	110	
	30 7 28		4時本番スタート		900～
30 7 28		数取り器で参加者数をカウント	3	1000	
	8 3	団地集会所	住民参加の総括・反省会	35	
事業効果	1. ルミエール千鳥団地だけの夏まつりだった昨年までより、参加者が約8割増加。地域挙げての大きなまつりになった。団地には小学生が10数人しかいない中、夏まつりには大庄中央地域中の子どもたちが参加、その数は数百人になり、良いふるさと思い出作りとなった。				
	2. 手伝い要員で団地内とほぼ同数が大庄地域から集まり、協力。その人たちが非常に生き生き活動していた。要員が増えた分、コーナー数や内容も豊富に充実できた。				
	3. 高齢化で活動力が鈍っていた大庄中央連協傘下の各町会が、宣伝、買い物券の前売り、当日要員として活動した。結果として地域の組織の活性化にもつながった。				
	4. 大庄中央連協(7町会で構成)での協同催しは、過去、防災避難訓練くらいで、参加者は約100人程度。(数年前ルミエール千鳥が呼びかけて連協で映画会を開催、200名を超える集まりが過去最高)。今回1000人近くが集ったのは素晴らしい経験。				
今後の展望	今回、連協の手伝い要員として初めて参加した人たちは「良かった」と元気になっている。しかし、一部の町会の役員の中には「しんどい」という雰囲気も残った様子。財政的にも、一部に渋い考えの役員も。従って来年もルミエール千鳥町会を中心に大庄中央連協総ぐるみの取り組みになるかは微妙なところもある。				
	防災訓練や啓蒙を兼ねた「防災夏まつり」などと、工夫を加えた企画を練り、来年度にルミエール千鳥から改めて提案し、今年以上の取組みが実現するように努めたい。その際、来年も「ふるさと応援助成」が受けられると大いに前向きな検討がすすむと期待するのですが…。もちろん、ルミエール単独になっても、来年も夏まつりは大いに取り組みます。ただ、高齢化で要員確保が年々厳しく、その場合、規模縮小という危惧もあり、やはり連協単位の運動にしていけるよう頑張ります。				

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

団体名	あまっこ川あそびサミット
事業名	～尼の川で一斉川遊び～ 尼崎の川で遊ぶ？えっ？！ホンマに？！
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	なし
事業の 目的・趣旨	<p>尼崎の川は、とてもきれいになっているが、汚い・臭いのイメージをもっている市民も多い。</p> <p>尼崎市内の川や水路で活動している仲間が集まって意見交換をする中で、川をもっと人の集まるところにしたい！川で遊び楽しさを味わってほしい！川で記憶に残る体験をしてほしい！川を世代をつなぐツールとして活用したい。との意見が出た。そこで、市内一斉川遊び期間を設定し、広報し情報の共有をはかることで、市内の川での活動に参加してもらう市民を増やす。</p>
事業内容	<p>市内の川で活動している団体が、7月7日～7月22日までの期間に川での活動を実施した。情報を共有し市民に広報し参加を呼び掛けた。</p> <p>市内一斉をアピールするために、活動場所に共通の幟をたてた。</p> <p>活動への参加を広げるために、市内のまつりなどの場で活動内容を紹介した。</p> <p>(詳細は事業経過参照)</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	18	7	7	藻川宮園橋	(キックオフイベント) キックオフイベント中止	(15)	(100)
	18	7	8	藻川中園橋	(魚とり、外来種駆除) 魚とり、外来種駆除中止	(5)	(50)
	18	7	8	西長洲荘	(庄下川イベント) 庄下川イベント：大人および成良中学の生徒が、庄下川での自然や健康づくりを発表共有。	4	50
	18	7	14	庄下川	(魚とり、水生生物調査) 魚とり、水生生物調査：親子連れが主でカワムツ、ヨシノボリ類、カダヤシなどを捕獲。捕獲した生物の生態や環境を解説。パドルボードなどでの水遊び体験も実施。	5	40

	18	7	15	園田地区水路	(ドジョウとり) ドジョウとり：親子連れが主でドジョウ、タモロコ、アメリカザリガニなどを捕獲。捕獲した生物の生態や環境を解説。	(5) 4	(50) 80
	18	7	18	藻川	(クリーン作戦) クリーン作戦：大人が主で河川敷のごみ拾いを実施。	(5) 3	(30) 20
	18	7	21	昆陽川	(水生生物調査) 水生生物調査：親子連れが主でメダカ、ドンコ、フナ類などを捕獲。捕獲した生物の生態や環境を解説。	(5) 6	(30) 40
	18	7	22	藻川・猪名川	(猪名川河川愛護セミナー) 猪名川河川愛護セミナー：親子連れが主で水生昆虫や魚や甲殻類などを捕獲。生息種から川のきれいさを判断して共有。	(5) 5	(100) 100
	18	7	22	上坂部西公園	(生き物調査) 生き物調査：親子連れが主でメダカ、ドンコ、ヒメタニシなどを捕獲。生物を展示し生態を解説。	(5) 3	(30) 約100
	18	9	23	藻川中園橋	(活動内容のパネル展示) 水辺まつりで活動内容をパネル展示してPR。	(2) 3	(1000) 約1000 閲覧者
	18	10	8	阪神尼崎駅前	(活動内容のパネル展示) 市民まつりで活動内容をパネル展示してPR。	(3) 3	(1000) 約500 閲覧者
事業効果	<p>参加者へのアンケートや、当日聞かれた感想は、ほとんどが「身近なところにこんな生き物が多くいてびっくりした」「こんな環境を大事にしたい」「また参加したい」などに類することだった。また、複数の団体から「今回、企画側に参加できなかったので、来年はぜひ参加したい」というオファーがあった。</p> <p>これらのことから、以下に挙げた効果があったと考える。</p> <p><効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・尼崎市のめざすありたいまち「身近な自然や生きものを大切にしよう」を意識し実践する市民が増えた。 ・川での活動の活性化がはかれる→担い手が増える予兆が見られた。 ・ネットワークの活用によって、モノや人の交流ができ、来年以降もネットワークが広がる可能性が得られた。 						

今後の
展望

(※次年度以降は、参加団体を増やしながら継続的に実施していく。)
反省会を実施した結果、「今回声がけしなかった団体から参加希望がある」
「実施できた個々のイベントはすべて成功した」「一斉川遊びの呼びかけで
参加した人が明らかに多くいた」などのことがあげられたため、来年以降
も本事業を継続、参加団体をより広げていくこととした。12月に来年の計
画を協議する予定。

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	「じぶんのまんまでええねんで」地域アートワークショップ
団体名	特定非営利活動法人スマイルひろば
活動地域	① (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	学校や家庭からの「学力向上プレッシャー」等の下、画一的な価値観に縛られたり、様々な家庭背景等の下、自己肯定感の低い状態で生活することもたちが、ありのままの自分を出しづらく、生きづらさを感じている。この課題に対して、先生や親とは違う関係性の地域の大人が協働し「失敗や正解がなく、結果よりも過程に価値をおく」アート活動を通して、「ありのままの自分を出してもいい」ことを感じ、その上で多様な他者と関わるのが楽しいと思えるキッカケを作り、課題解決の一步とする。
事業内容	<p>小学生から中高生までを対象に、地域の居場所で、講師を招きアートワークショップを行う。また、単なる創作ではなく、「ありのままの自分を出してもいい」というメッセージを伝えるために、人権の視点を持ちながら「多様性」を尊重し、楽しみながら参加できるプログラムを行った。</p> <p>・「雨傘ペインティング」 >透明なビニール傘に思い思いの色をのせながら、ペイントをする臨床美術。 >運営メンバーの中高生には、事前に交流を深めるアイスブレイクと、事後に 事業の振返りとしてワークを実施。 日時：8月1日（水）9：45～12：30 場所：尼崎市立地域総合センター神崎 参加：小学生22人、幼児2人、大人1人、 *運営メンバーとして、中学生4人、高校生9人 講師：島田佐知子（りとるぱーてい）、佐藤晴奈（アトリエすこし）</p> <p>・「つくって！あそんで！たべたるでー！かぼちゃのチャチャチャ！」 >新聞紙と和紙を使い、自分だけのかぼちゃを作る臨床美術。 >運営メンバーの高校生には、事後に事業の振返りとしてワークを実施。 日時：10月27日（土）9：30～12：30 場所：尼崎市立地域総合センター神崎 参加：小学生16人、幼児1人 *運営メンバーとして、高校生3人 講師：島田佐知子（りとるぱーてい）、佐藤晴奈（アトリエすこし）ほか2人</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	6	1	スマイル ひろば	8月1日ワークショップ 打合せ	1	2
		7	13	小田北中学校	8月1日ワークショップ 運営メンバー呼掛け	1	11
		8	1	地域総合 センター神崎	ワークショップ 「雨傘ペインティング」	16	25
		8	17	スマイル ひろば	8月1日ワークショップ 振返り & 10月27日ワークショップ 打合せ	1	2
		10	27	地域総合 センター神崎	ワークショップ 「かぼちやのチャチャチャ」 & 振返り	5	17
事業効果	<p>小学校区単位での学校と地域の協働が求められている中で、参加者と運営スタッフに、学童期から思春期までのこどもたちの参加を呼びかけることで、地域の拠点施設を中心にした、年代を超えた交流による、こどもたちの居場所づくりのモデルを提示できた。</p> <p>また、「失敗や正解がなく、結果よりもプロセスに価値をおく」アート活動を通して、「ありのままの自分を出してもいい」というメッセージと、実際のイベント中にひとり一人のどんな作品にもポジティブな言葉がけをすることを通して、その思いを体現するキッカケを作ることができた。</p> <p>さらに、中高生の運営メンバー参加によって、参加する小学生とのイベントの中での関わりや、イベント後の遊びを通して、地域での年代を超えた交流、また、中高生にとっては小学生との関わり方や、体験活動をどのように自分の経験として生かすかについて、考える機会を提示することができた。</p>						
今後の展望	<p>今後は、当該小学校区で地域学校協働本部が立ち上がっていることから、継続した事業として実施することにより、校区のこどもたちが学校にいる間にアート活動や年代を超えた交流を体験できるように学校等と検討していく。</p> <p>また、今回は主催側が予め企画したプログラムへの助っ人参加だった中高生が、自ら地域の小学生にどのような機会があればよいかを考え、地域のメンバーと協力しながら実現へ向けて活動できるよう主催側及び地域の構成員が後方支援できるような機会も検討していく。</p>						

【事業実施状況を示す写真、チラシ等】



事業報告書

事業名	大庄地区カラス対策事業
団体名	市民運動大庄地区推進協議会
活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>全国的にもカラスによるごみ被害（散乱被害等）があり、尼崎市大庄地区においても同様である。被害を防ぐため、各家庭で防鳥ネット等の対策も見受けられるが、効果的な利用方法が取られていない場合もあり、依然として被害は多く、カラスも多く見られる状況である。地域住民としてカラスの数自体を減らす対策は難しく、しっかりとゴミの防護を行い、食べられるエサを少なくし、カラスの生息を少なくすることが、解決につながる対策であると考え。適切なカラス対策の周知やカラスに対する理解を、地域住民に呼びかけていく。</p>
事業内容	<p>大庄地区内の共同ゴミ集積場所の調査（尼崎市は原則各戸収集）及び現状のカラス被害の調査を実施し、対策モデル地区（連協単位程度）として、5つの連協を選定した。</p> <p>ごみのカラス被害対策として、ごみ出し方法での対策を実施するため、既製品の購入よりも安価で比較的簡単に作成できる「あぜ板枠」を使用した施策等を実施した。実施に当たっては、モデル地区ごとに「あぜ板枠」づくりのワークショップを開催した（一部ワークショップ形式ではなく、機材貸し出し等による自主作成も含む）。</p> <p>作成後には、実際に「あぜ板枠」を使用したゴミ出しによる被害対策を実施してもらい、対策前と対策後の比較や「あぜ板枠」の使い勝手等を調査するため、アンケート調査を実施した。</p> <p>なお、「あぜ板枠」の作成は、モデル地区ごとに10個ずつ作成している。また、ワークショップを進めていく中で、作成に必要なインパクトドライバーを持っていないため貸出しを行ってほしいとの声があった。この取組を広めていく中で、今後も同様の要望が多数出てくると想定されたため、今回インパクトドライバーの購入を行い、実際に貸出して作成してもらった地域もあった。</p> <p>また、モデル地区住民を対象に、「あぜ板枠」での対策と併せて、カラスの習性やカラス被害の効果的な対策などを学ぶ講演会を、兵庫県立人と自然の博物館研究員の布野隆之氏をお呼びし、実施した。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	H30	6	15	大庄地区内	集積場所アンケート調査実施		
		8	17	〃	あぜ板枠の試作	5	
		10	10	大庄地区会館	カラス対策事業にかかる講演会の実施	6	28
		11		大庄地区内	あぜ板枠ワークショップ	10	約 30
	H31	～1					
		1	～2	〃	事後アンケート実施	2	28
	3	13	〃	結果の公表		26	
事業効果	<p>共同でごみを出している集積場所の調査において、大庄地区だけで 621 の共同ごみ集積場所があり、またその約 1/4 の 161 の箇所において対策を行っているが、カラスの被害があることが判明し、大庄地区において、カラス被害対策に力を入れる必要があることを改めて感じることができた。</p> <p>「あぜ板枠」を使用した対策については、対策後のアンケート結果により、形状などに課題を抱えるものの、概ね好評であり、被害が減ることも確認ができ、モデル対策として、十分な検証ができた。また、試作やワークショップを進める中で、作成方法のノウハウを得ることができ、マニュアル整備や作成のための資機材等も購入ができたため、来年度以降の作成・設置の推進に役立つ取組ができた。</p>						
今後の展望	<p>既製品のBOX型等カラス除けネットは、価格も高く、地域住民において負担の大きいものであるが、「あぜ板枠」を使用した対策については、今回のアンケート調査で効果も確認できたため、来年度以降も推進していく。</p> <p>また、「あぜ板枠」の設置について、形状や設置場所の選定などの課題も抱えていることは事実であり、その課題解決に向け、地元のみなさんや各官公庁、専門家等と協議を重ねていきたい。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	「尼崎市立花地域に子育ての輪を広げよう」事業
団体名	立花「結'S」(たちばなゆーず)
活動地域	1 (尼 崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	尼崎市立立花公民館 園田学園女子大学
事業の 目的・趣旨	立花地域には子育てサークル、民生(児童)委員、子ども会など子育て環境の醸成のために多くの団体が日々活動を行っているが、個々の活動の維持に精一杯な現状にあるため、お互い「横の繋がり」を形成すべく、尼崎市立立花公民館の事業を通じグループを立ち上げ「顔の見える関係」を平成28年度末に構築し、平成29年度以降は、グループ構成員同士が様々な情報交換と具体的な取組を行うことにより、個々の活動における課題の解決を図るとともに、「協働」により立花地域において「より効果的な」子育て環境の醸成を図る。
事業内容	<p>(具体的な取組)</p> <p>1、定例会 原則として、毎月第3日曜日の午前9時30分～午後12時、立花公民館で開催。 内容は、構成員から活動における課題等の意見交換と情報提供及び事業実施。 6月17日、7月15日、9月9日、9月30日、10月15日、10月29日、11月19日、 31年1月27日の8回。</p> <p>2、講演会 子育て支援講演会『発達凸凹を理解しよう!』～発達障害の理解と支援について～ 日時：平成30年12月2日(日)午後1時30分～午後3時30分 会場：尼崎市立立花小学校視聴覚室 講師：兵庫県立尼崎総合医療センター 小児科医長 石原 剛広 先生 参加者数：80人 子育て支援リーダー研修会『手作りおもちゃ』 日時：平成31年1月27日(日)午前10時～午後12時 会場：尼崎市立立花公民館学習室1・2 講師：NPO法人やんちゃんこ 代表理事 濱田 英世 先生 参加者数：23人 子育て支援講演会『子育てと子育てについて』 日時：平成31年3月10日(日)午前9時～午後12時 会場：尼崎市立立花公民館学習室1・2 講師：園田学園女子大学人間健康学部 教授 金岡 緑 先生 参加者数：28人</p> <p>3、立公ふれあいまつりイベント参加</p>

<p>尼崎市立立花公民館まつりへのイベント参加としてキャンディブーケ作りを出店 日時：平成30年11月10日(土) 午前10時～午後4時 会場：尼崎市立立花公民館ロビー 内容：キャンディブーケ作り(実費200円) 参加者数：75人</p> <p>4、園田学園女子大学との連携 園田学園女子大学の「つながりプロジェクト」に立花「結's」との連携で、傘下団体のメンバーにアンケートを実施し、地域子育て支援事業として、立花地域のイベントカレンダーを作成。</p>
--

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	6	17	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 兵庫県制150周年記念事業 について	3人	24人
	30	7	15	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 園田学園女子大学との連携 について	3人	18人
	30	9	9	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 立花公民館まつりの参加に ついて	3人	16人
	30	9	30	市立立花公民館 和室	定例会(意見交換・情報提供) 発達障害講演会について	3人	10人
	30	10	15	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 子育てフェスティバル・オー プニングについて	3人	16人
	30	10	29	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 子育て支援リーダー研修会 について	3人	15人
	30	11	10	市立立花公民館 ロビー	立公ふれあいまつりイベン ト参加(キャンディブーケ)	9人	75人
	30	11	19	市立立花公民館 学習室1・2	定例会(意見交換・情報提供) 子育て支援講演会について	3人	12人
	31	1	10	園田学園女子大 学5号館2階	園田学園女子大学「支えあ い」を育む人づくり支援事業 実施報告会参加		2人
	31	1	27	市立立花公民館 学習室1・2	子育て支援リーダー研修会 『手作りおもちゃ』	3人	23人

	31	3	10	市立立花公民館 学習室1・2	子育て支援講演会 『子育てから子育てへ』	3人	28人
事業効果	<p>発達障害講演会の『発達凸凹を理解しよう!』については、地域住民を始めとして多くの方が関心を持っておられ、受講定員70人が80人受講と大変盛況であった。</p> <p>子育て支援リーダー研修会の『手作りおもちゃ』については、子育て支援リーダーの技能向上を目的としたが参加者数は少なかった。</p> <p>子育て支援講演会の『子育てから子育てへ』については、広報が悪かったのか28人の参加であった。以上の講演会や研修会を実施して、立花地域の子育て環境の向上に寄与できたと考えている。また、立公ふれあいまつりにイベント参加して親子世代や若年及び高齢の世代とも交流ができた。スタッフとして参加した者たちも、互いに話し合う時間が持てて、より一層理解しあえて今後の活動に役立つと考えている。</p>						
今後の展望	<p>今年度は、兵庫県政150周年記念県民連携事業「たちばな子育てフェスティバル」を含む多彩な事業を実施し、立花地域に立花「結's」の名を広く知っていただいた。</p> <p>立花「結's」は、子育て支援に携わっている者達の集団として、これからも地域の子育て支援について話し合っ、色々な意見や課題を出し合いながら、事業を考えていきます。</p> <p>これからも、立花地域の子育て環境の向上に資するよう頑張っていきます。</p> <p>来年度についても、色々な専門家の話や体験と交流ができるような事業を構築していきます。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	きたろく里山音楽祭 2019
団体名	県民交流広場・北六甲台校区協議会
活動地域	1 ()市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：西宮市山口町、宝塚市、伊丹市、三田市、神戸市北区)
協働団体	西宮市文化振興財団
事業の目的・趣旨	西宮市北部・山口町は、旧村と新興住宅地が混在しています。地域特性かどうか別として、交流が難しい環境にあります。こういった山口町でコミュニティの輪を拓げるために、音楽文化を根付かせようと5年前に「きたろく里山音楽祭」を立ち上げました。前回の「きたろく里山音楽祭 2018」には延べ 980 名のお客様をお迎えし盛大に開催致しました。多くのご来場者をお迎えし、本来の目的である「コミュニティの輪を広げる」ことが図れつつあると思っています。
事業内容	<p>【きたろく里山音楽祭 2019】</p> <p>開催日時：平成31年2月17日(日) 9時～16時 開催場所：西宮市山口町下山口4-1-8 西宮山口ホール 出演：14組のアマチュア音楽グループ 参加人員：ご来場者延べ総数=1,336名、出演者=204名、スタッフ=46名</p> <p>演奏 ①和太鼓演奏 ②アンサンブル演奏 ③ピアノとバイオリン合奏 ④合唱 ⑤大正琴合奏 ⑥ピアノと歌唱 ⑦ピアノと尺八の合奏 ⑧ピアノとカホーン合奏 ⑨吹奏楽演奏 ⑩和太鼓演奏 ⑪子供のダンス ⑫琴の合奏 ⑬バンド演奏 ⑭会場のお客様によるダンス ⑮バンド演奏</p> <p>今回新しく、子供のダンスグループ・ラブステップを招聘し、音楽だけでなくヒップホップダンスを組み込みました。幼児から高校生まで65名の子供たちが25分間踊り通しました。今までの音楽祭と違いビジュアル要素が加わり、きたろく里山音楽祭の幅が拓がりました。</p> <p>また、会場の椅子を取り払いダンススペースを設け、グループサウンズから現代の曲を会場に流し、お客様とスタッフが一緒になって踊りました。高齢者の方々は昔を思い出し、汗を流し息を弾ませながら踊っておられました。新しい試みは受け入れられ、前年比356名増の延べ観客数1,336名を数え、新趣向は大盛況でした。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	7	24	北六甲台コミュニティ会館	きたろく里山音楽祭 2019 実行委員会立上げ	6	
	30	8	20		出場グループ募集開始 締め切りは9月末	6	
	30	8	27	〃	第2回委員会開催	6	
	30	9	1		企業協賛募集開始	7	
	30	10	15		出場グループ 15 組エントリー終了 第3回実務委員会開催	7	
	30	11	1	〃	チラシ・ポスター作成開始		
	30	11	25	〃	出場グループと打合せ	7	16
	30	12	3	〃	第4回実務委員会開催	6	
	31	1	20	〃	出場グループ最終打合せと交流会	7	15
	31	2	12	〃	前日～当日のスタッフの配置最終確認	6	
	31	2	16	西宮山口ホール	リハーサル	18	64
31	2	17	〃	きたろく里山音楽祭 2019 開催	46	1336	
事業効果	<p>新しい試みを思考した時、果たしてダンスを踊って頂けるのか多少の不安はありました。子どものダンス・ラブステップの華麗なダンスに目を奪われ、続いての会場でのお客様のダンスタイムには、特に高齢者が沢山踊っておられました。みんな若い頃にタイムスリップされてようで、息を切らしながら心地よい汗を流しておられました。当初の不安は杞憂におわり、新趣向はお客様から好評でした。</p> <p>子供のダンスには親御さんやご家族の方が見に来られ、ダンスがあることで高齢者の方々も当時の音楽を楽しもうと見に来られ、本来の目標である「コミュニケーションの輪を拡げる」ことが出来ました。</p>						
今後の展望	<p>中学生から高校生のお客様としてのご来場が少なく、中高生の音楽グループが出場して見ようと思うような音楽祭を思考したいと思います。</p> <p>過去の実績を振り返りますと、若年層の取り込みが欠けていますので、次年度に向け知恵を絞って「きたろく里山音楽祭 2020」開催に邁進して参ります。</p> <p>また今回、申請の段階で「エイサー」を考えていましたが、今回はダンスを取り入れたので、近い将来には「エイサー」を取り入れるつもりです。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	第9回『長洲ふれあいフェスティバル』
団体名	長洲社会福祉連絡協議会
活動地域	尼崎市
協働団体	自衛隊兵庫地方本部西宮地域事務所
事業の 目的・趣旨	地域住民の幅広い世代の人たちの参加が低迷化し、低調である。この現状を打開するために若い世代からの意見を取り入れ、行事内容の活性化を図り、多くの人々がもっと喜んで参加できるよう促進する。
事業内容	<p>●平成30年4月29日（日・祝）第9回ふれあいフェスティバルの開催 模擬店コーナー（焼きそば・たこやきなど） 遊びコーナー（ヨーヨー釣り、くじゲーム、スマートボール、輪投げなど） 手作りおちゃ（笹笛、風車など） 尼崎の名産品販売 バザーコーナー（新鮮な果物など）</p> <p>今年度は新たに自衛隊に参画いただきました。会場にジープや活動内容の写真パネルを展示した他、子どもたちと記念撮影も実施しました。自衛隊や防災について啓発を行うことで、子育て世代の防災意識の醸成が図れたと思います。</p> <p>県立尼崎小田高校に依頼し、バトントワリングやコーラス、ダンスを披露して貰いました。その他にも小田中学校の吹奏楽の演奏や西長洲の子どもたちによる太鼓の演技なども行いました。</p> <p>こういった新企画により、こどもから大人まで楽しめ、多くの世代が楽しく交流できるものになりました。これからもこれらの交流の盛り上がりを活かしながら、地域の安全安心なまちづくりにつなげていきたいと考えています。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	4	7	長洲連合会館	役員全体会議 部門ごとの取組と調達品の確認	18	
			21	〃	各部門の責任者との 最終打ち合わせ	18	
			28	フェスティバル会場	前日準備	40	
			29	〃	フェスティバル当日	50	1100
事業効果	<p>模擬店コーナーで各町会からは今までに見かけなかった人たちがスタッフとして参加されていましたので、活気がありました。</p> <p>小田中学校の吹奏楽の演奏、小田高校のバトントワリングまた小田高校有志による防災啓発する発表、コーラス、ダンス等これらの企画を通して、大きな盛り上がりがありました。</p> <p>自衛隊の西宮地域事務所から3名の方が来ていただき、パネルを通して活動の様子などを知ることができ、写真撮影などでも盛り上がりました。</p>						
今後の展望	<p>今回のフェスティバルに関係した多くの人たちを地域の大きな力として育てていき、長洲の地域力向上を目指します。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	芦屋市浜風小学校区域の地域防災計画の策定 及び住民皆が参加できるよう工夫された訓練の計画と実施
団体名	芦屋浜東地区自主防災会連絡議会
活動地域 (いずれかに○)	① (芦屋) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市 町：) 〔活動地域とは、本事業の参加者や その活動の影響が及ぶ範囲〕
事業の 目的・趣旨	正確な情報による避難計画の策定と実施 (地域にある避難所の実態を把握し、また講座や自己学習を行うなか で、日頃からどのように準備し安全に避難をするのか想定できるように する。)
事業内容	<p>1. 災害別の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ●8月7日 大阪北部地震時の各自の行動を分析した。また東日本大震災に関するDVDを観賞するとともに、想定される津波の被害などを学んだ。 ●12月15日 日本気象予報会関西支部より講師を招聘し、台風のメカニズムや警報・注意報の基準、浸水想定区域等について講座を実施した。 <p>2. 地域の各種設備の把握</p> <p>避難訓練(11月)や防災講座(2,3月)を通じて、地域の避難施設を確認した</p> <p>3. 避難行動時の分析</p> <p>6月～9月にかけて、実際の「大阪北部地震」「台風21号」発災時の各自の行動や避難状況を分析し、避難時の持ち物の準備や初動のタイミング、事前に家族内で話し合いをしておくことの重要性を確認した。</p> <p>4. 自分の避難計画の策定</p> <p>講座において、日頃から備え、素早い行動ができるよう、記入形式の帳票を作成してもらった。(別紙参照)</p> <p>5. 計画に基づいた訓練実施と評価</p> <p>津波避難訓練を、一定の想定に基づき実施した。 併せて、防災設備の点検確認も行った。 最近の非常食の共食を行い、自宅での備えの参考にした。</p> <p>○水平訓練については、地域全体の高齢化のため、実際に行けるのかを体験してもらったが、距離と途中の標高の低い地域を抜けていかなければならない不安を改めて感じた方が多かった。</p> <p>○垂直避難については、「芦屋市指定の一時避難ビル」に上がったが、7階という高さも、以外と高齢者には大変きつかった。またトイレや水・非常食の備えを自ら用意しなければならないことも理解できたが、いざという時の大きな困難をどう捉えるのか、課題が残った。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	06	15	浜風小学校 会議室	計画の概要発表	05名	32名
	30	07	20	地域会議室	基本的な日程	05名	25名
	30	08	07	地域会議室	大阪北部地震の行動分析	06名	32名
	30	09	21	地域会議室	台風21号被害の報告	06名	42名
	30	09	24	集会所	方向性の確認	06名	08名
	30	10	30	地域会議室	津波避難訓練の実施内容検討	06名	34名
	30	11	25	地域	津波避難訓練	12名	250名
	30	12	15	地域会議室	第1回防災講座	06名	30名
	31	01	26	地域会議室	第2回防災講座	06名	31名
	31	02	16	地域会議室	第3回防災講座	06名	26名
	31	03	02	地域会議室	第4回防災講座	06名	22名
事業効果	<p>1. 避難想定にかかる従前の知識と現実の問題点把握 浜風地域にある避難所の位置と性格については、確認できた。自分で備えるべき事項についても、共通認識は一定一致した。</p> <p>2. 地域の特性に合った避難計画と訓練 埋め立て地という立地の中で、津波避難については、高齢化による困難性をどう解決するかという点で、課題が明確になった。</p> <p>3. 避難訓練での各世代の交流から、各世代の役割を認識・行動できる。 地域コミュニティの少年野球クラブ等の参加で、高所避難時での援助や役割分担についても経験ができた。</p>						
今後の展望	<p>1. 津波避難訓練 今年度の取り組みにおいて、一時避難ビルのあり方が明らかになった。避難者をどう受け入れるのか、備蓄品があるべきなのか、今後検討していく。</p> <p>2. どの避難所を選択するのか 台風の避難準備段階での避難所は、宮川を西に渡った潮見小学校が指定されているため、接近するかなり前の早い判断が必要になる。状況の分析力を高めていく。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	住民がつくる防災のマップ作成と情報の共有
団体名	西宮北口町自治会
活動地域	1 (兵庫県西宮市) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ●南海トラフ地震などの災害発生に備え防災意識を啓発したい。 ●住民の増減や入れ替わりがあり日常生活で住民同士の接点が薄れてきているので地域コミュニティとマンション等コミュニティの連携を図りたい。 ●情報源が増え、年代によって得られる避難情報が異なるので、地域コミュニティ発信の情報を共有してもらいたい。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練と、住民が編集する防災マップ作り ・自宅から避難場所まで実際に歩き、白地図に危険個所や気付いたことを記入。 ・その情報をもとに防災マップを作成する。 ・その防災マップを印刷、住民に配布する。 ・電子掲示板で継続的に防災情報を配信する。 ・子供も参加しやすいイベントを企画する。

(別紙4-2)

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	7	2	高木センター	防災マップの見直し、作成の趣旨とスケジュール決定	20名	
	30	8	6	高木センター	まちあるきの会の告知方法とマップ内容について話し合い	20名	
	30	9	3	高木センター	防災啓発方法について話し合い。	20名	
	30	10	1	高木センター	マップ見直しまち歩きスケジュール決定	20名	
	30	10	21	北口1号公園	きたぐちまつりで防災マップ見直しのためのまち歩き告知。地区の地図を貼り出し参加者からの気になる個所のフリー記入	30名	500名
	30	11	5	高木センター	まち歩き案内書面と当日のスケジュール決定	20名	
	30	11	25	北口町・高木西町	まち歩き実施。危険個所、有用個所の確認と地図上での記入	14名	14
	30	12	3	高木センター	まち歩き結果報告。マップ裏面内容について話し合い	20名	
	30	1	5	高木センター	マップ裏面案たたき台に基づき話し合い	20名	
	31	2	4	高木センター	マップ修正案の確認。印刷、配布スケジュール決定。自主防災組織について説明	20名	
	31	3	4	高木センター	マップ印刷。報告会。	20名	
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> 自治会役員全員による実行委員会で防災マップの見直し、作成を行ったことで全役員等の防災意識向上が図られた。 マップの作成過程で、おまつり時の告知、危険個所等のフリー記載や一般の方の参加も得てまち歩きを行なったこと。ならびにマップの配布で住民の方の防災意識が向上した。 マップの見直し、作成の中から自主防災組織も立ち上げることができた。 マンションロビー電子掲示板で、マンション住民に周知することができた。 						

今後の
展望

- マップに防災のためのチェック事項、非常時持出品等リスト等も掲載したことで、今後の自主防災訓練や啓蒙活動にも活用していく。
- 防災訓練等で主体的に参加し防災活動に担える方を拡げていきたい。
- SNS については担当者が定まらず次年度の課題とした。
- 防災士による講座は、防災士のスケジュールが合わず開催ができなかった。10月11月は防災イベントが多く、講師を確保できない可能性が高いということで来年度はそれ以外の月でスケジュールを組み、開催したい。

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

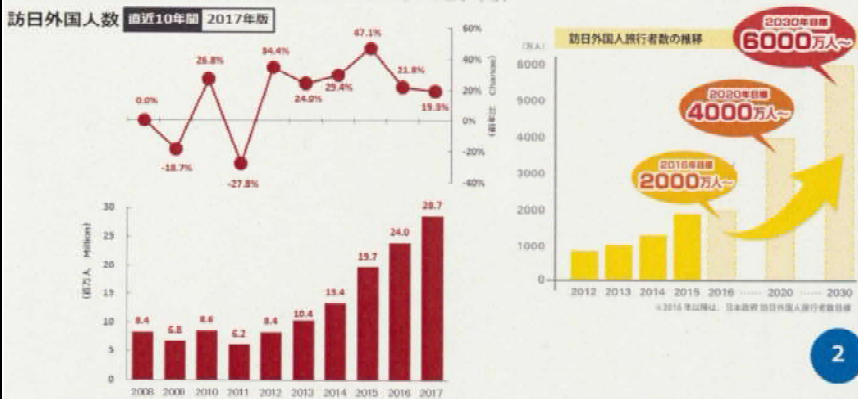
事業名	『魅力ある園田のグランドデザイン・郷土創生を思案する』
団体名	園田まちづくり委員会
活動地域	① (尼 崎) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	NPO法人尼崎-夢まち-委員会
事業の 目的・趣旨	<p>① シチズンシップとまちの魅力の向上を目的に、行政主導から市民主体によるまちづくりのアイデアを事前に提案し、情報公開によって行政・市民双方の意識化を図る。</p> <p>② 市内6行政区で一律の公共サービスを受受するのではなく、各々地区ごとにその地域に見合ったサービスやまちづくりの為のアイデアなど、まちの魅力を感じることでできるグランドデザイン・郷土創生を思案する。</p>
事業内容	<p>① 地域の共通課題である、水害等の防災をテーマにした安心・安全のまちづくり学習会を通して、園田地域全体の水害対策や避難、並びに総合治水を意識する為の広域的防災マップとして試作。限られた避難所(定員)を周知し、効率的な避難行動を誘導する為の社会的秩序と体制(コミュニティ)を計画的に形成して行く際のガイドラインとする。今後、更なる情報提供や意識化を段階的に進める。</p> <p>② 地域の特性や地元の歴史に学ぶ「まちづくり学習会」を通して、園田地域をPRできる観光ガイドマップとして試作。遺跡・名所や地元の自然環境をはじめ、それらを巡る散策ルート等を紹介。今後は、地元を自慢できる園田の特性を周知し、地域の商店や学校関係、協力企業等との連携を模索し、観光の視点でまちの賑わいを促進、プロモートするよう試みる。</p> <p>③ 幅広い地域の課題解決と、想定されるニーズに基づくまちづくりを考える為のガイドラインとして、園田のまちのグランドデザイン案を、①防災マップ②観光ガイドマップ等を参考・基本コンセプトにしながらか試作。今後、更に行政と市民によるパートナーシップに基づく協働提案型まちづくりを目指す。グランドデザインは、園田地域について市民がより一層の理解ができ、まちの将来を考える際のアイデアツールとして活用する。</p> <p>④ 官・民双方の効率的な公共サービスへの理解と周知、都市機能の補充と分担を検討する等、園田地域の広域的連携と共生を考える事で、コンパクトにして住みたいまち・園田モデルを市民から提案した。今後、更なるまちづくり情報の発信・充実を図る中、まちの将来像の検</p>

	<p>証に向けて、官・民協働で段階的に取り組む。(まちづくり企画・プロデュース)</p> <p>各マップ①②③は園田地域の全町会・自治会へ回覧した(各総部数:3,000部)</p>
--	--

事業計画 経過報告	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
	30	6	13	阪神南県民センター	竹岡 副センター長【住民主体のまちづくり・防災訓練等】 ① 県民交流広場支援の活用 ② 尼崎市都市計画課と連携 地域観光促進課：佐場 副課長 駅構内 PR 観光案内⇒阪急電鉄 【園田⇒梅田～西宮北口】 ① 猪名川自然林と遺跡巡り ② 地元開催のイベント案内 ③ 園田駅を巡るまちづくり ④ JR 塚口・猪名寺との連携 第19回園田まちづくり委員会 観光地域づくり/学習会 [まち咲き施策推進部：安田 部長]	4人	10人
			22	阪急交通社			
			23	富田高安記念会館			

訪日外国人旅行者の推移

- 2003年 ビジット・ジャパン・キャンペーン開始
- 2017年 大幅に増加し2800万人を突破



尼崎における観光客入込客数

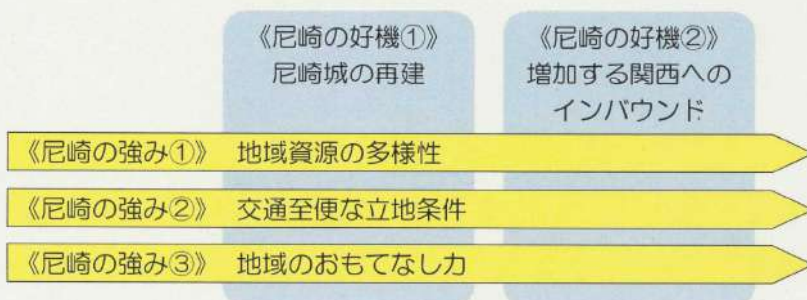
宿泊客数及び日帰り客数は年々増加中



日帰り客の30%と宿泊客が、今より1食(1000円)多く食事を行った場合

(答) $199万人 \times 30\% + 41万人 = 100万人$
 $100万人 \times 1000円 = 10億円!$

尼崎の強みと好機

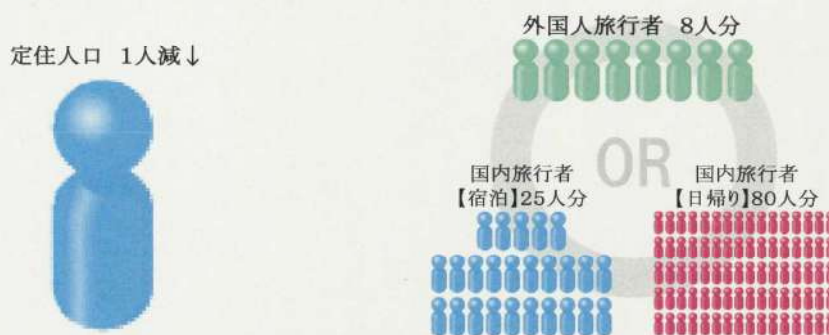


尼崎の強みを軸とした効率的・効果的な展開を図り、好機を生かした観光による経済効果の獲得を実現させる。

9

観光による「稼ぐ力」の必要性

- 定住人口 1 人減＝年間消費額 125 万円減
- その減額分の消費を獲得するためには・・・



4

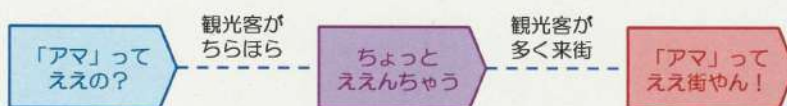
※全国の観光交流人口増加の経済効果を踏まえ算出(2015)

観光客の増加によって

- 観光客を獲得することには、「儲ける」以外にもメリットがあります。それは・・・

「地域に対する誇りと愛着」

- 観光客が来る = 複数候補から尼崎を選択
- 多くの観光客が来る = 多くの人が尼崎が良いと思う
- 尼崎市民 = 選ばれている町の住民



5

観光のニーズやスタイルの変化

【従前の傾向】

- ・ 団体旅行が中心
- ・ 観光名所への大量輸送・大量消費の発地型観光
- ・ 旅行雑誌やパンフレットからの情報収集

有名な観光地へ

【近年の傾向】

- ・ 個人/小グループ旅行の割合増加
- ・ 現地でないとできない体験等を目的とした着地型観光
- ・ SNS等を活用した情報収集

好きな地域へ

6

観光地域づくりの目指すところ

観光の視点による新たなまちづくり

- ① 地域の稼ぐ力の向上 情報発信×交流人口×消費喚起
- ② まちの魅力と価値の向上 新たな都市イメージの発信
- ③ シビックプライドの醸成 歴史・文化に触れる

7

29

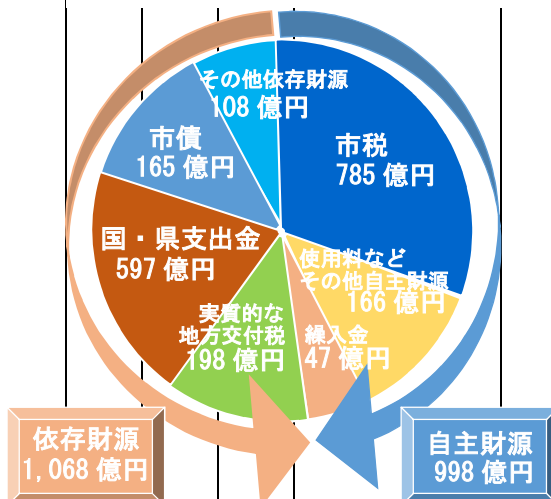
東塚口1丁目
目福社会館

第20回園田まちづくり委員会
尼崎市の時代背景に見る財政
[財政部財政課：村井係長]

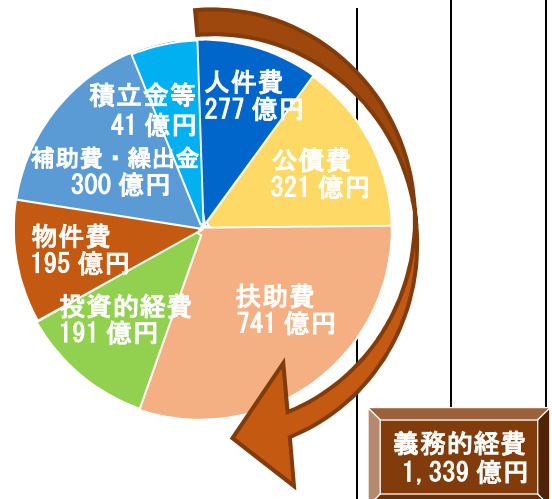
4人

15人

平成30年度収入：2,066億円



平成30年度支出：2,066億円



平成 30 年度予算

一般会計 ⇒ 2,066 億円

特別会計 ⇒ 995 億円

公営企業会計 ⇒ 764 億円

平成 30 年度の支出の内容

・ 市長や市議会議員、市役所の職員等の給料等に使われます

・ 277 億円

人件費

・ 大きな施設や設備の更新や道路などをつくるために使われます

・ 191 億円

投資的経費

・ 大きな施設や道路をつくるときに、国や銀行などから借り入れたお金の返済に使われます

・ 321 億円

公債費

・ 市民や市内企業に補助金を渡したり、特別会計への仕送りのために使われます

・ 300 億円

補助費・繰出金

・ 生活困窮者、子ども、高齢者、障害者などを援助するために使われます

・ 741 億円

扶助費

・ その他、施設の維持管理や、消耗品の購入などのために使われます

・ 236 億円

物件費・その他

あまがさき「未来へつなぐ」プロジェクトの目標

1. 更なる構造改革の推進

2. 交付税措置を重視した市債管理

3. 計画的・戦略的な基金の積み立て

4. 更なる将来負担の抑制

市債（借金）残高を減らし基金（貯金）を増やす

財政調整基金から繰入金⇒実質的に 22 億円の赤字

8

25

椎堂福祉会館

第21回園田まちづくり委員会
市の産業振興の歴史と将来性
⇒園田地域の新たな産業振興
[地域産業課]

3人

10人

商・工都市の新たな戦略⇒観光ビジネスの可能性

商店街・小売業の社会的役割

・都市の人々は、
市内に住み、市内の工場・会社に通い
地域の商店街で買い物をする

地域コミュニティを形成

かつて、地域における
コミュニケーションの場であった

急激な工業化による環境汚染の進行

地価の上昇や住工混在等の都市問題

目まぐるしい社会・経済情勢の変化

工場移転・閉鎖が増加⇒産業活動の停滞

平成12年⇒大規模商業施設の台頭

少子（商店主）高齢化⇒後継者不足

消費者ニーズの多様化（通信販売台頭）

商・工都市の新たな戦略⇒市の産業振興

規制緩和・規制強化

認定制度・表彰制度

コーディネート⇒観光ビジネス

10 27

下食満
福祉会館

第 22 回園田まちづくり委員会
自治のまちづくりに向けた
⇒地域振興体制の再構築
[ひと咲き施策推進課：阿
山]

3 人

10 人

基本自治条例＋地域振興体制 ⇒ 官民協働のまちづくり

① 趣旨⇒尼崎市の体制

官民協働でともに取り組み、各々の持つ力が発揮されるより良い
⇒「行政組織の体制づくり」「職員の行動・意識改革」

② 目指す姿⇒官民協働の取組

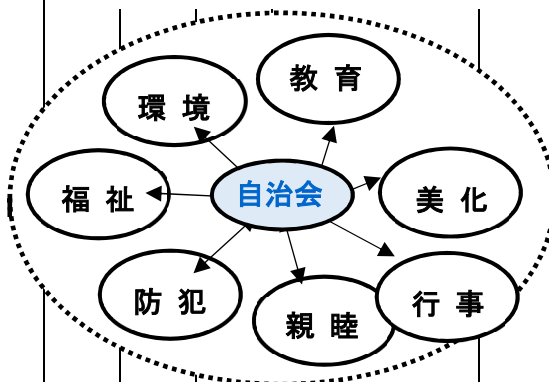
遊びや活動・交流の機会を増やして、地域への関心度をUP
市民の学びと活動の循環⇒地域への広がり
互いのつながり形成と顔の見える関係づくり
官民協働の活動による地域の課題解決や魅力向上へ

③ 取組の方向性⇒「できれば参加したい人達」

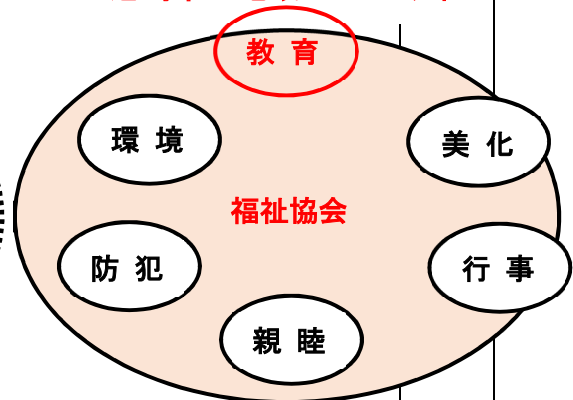
地域発意の取組が広がる環境づくり
地域を支える新たな体制づくり⇒官民協働の体制づくり
地域とともにある職員づくり

尼崎市の自治会の構造【第 34 回兵庫自治研究会 レポートより】

他都市の地域コミュニティ



尼崎市の地域コミュニティ



自治会機能と尼崎市の課題【自治会＝社協】

① コミュニティのズレ

【教育コミュニティ（校区）と福祉コミュニティ（連協）のズレ】

② 行政の補完機能

【町会が社会福祉協議会の下部組織⇒行政の末端機能の役目】

③ 排他性

【地域主催のイベントに他の地域・団体の参加を拒む態勢】

④ 加入率

【未加入世帯の行政サービス・情報供給の機会を奪う形になる】

社会福祉協議会に2つの機能【強みとして活用】

- ① 町会は地域を代表する団体
- ② 市の審議会等では市民代表として扱われる
【⇒福祉団体の代表としては扱われない】

町会は地域を代表する組織としての自覚が必要

- ① 公益（公共性）意識への転換
- ② 町会加入は強制ではなく市民の権利という意識改革

町会は地域自治を進める主体である

- ① 福祉や環境、安全等のサービスを行政と協働で行う
【⇒行政の下請けではなく】
- ② 目的別にNPOや他の法人等とのネットワークを築く
【⇒コミュニティの向上に寄与する】

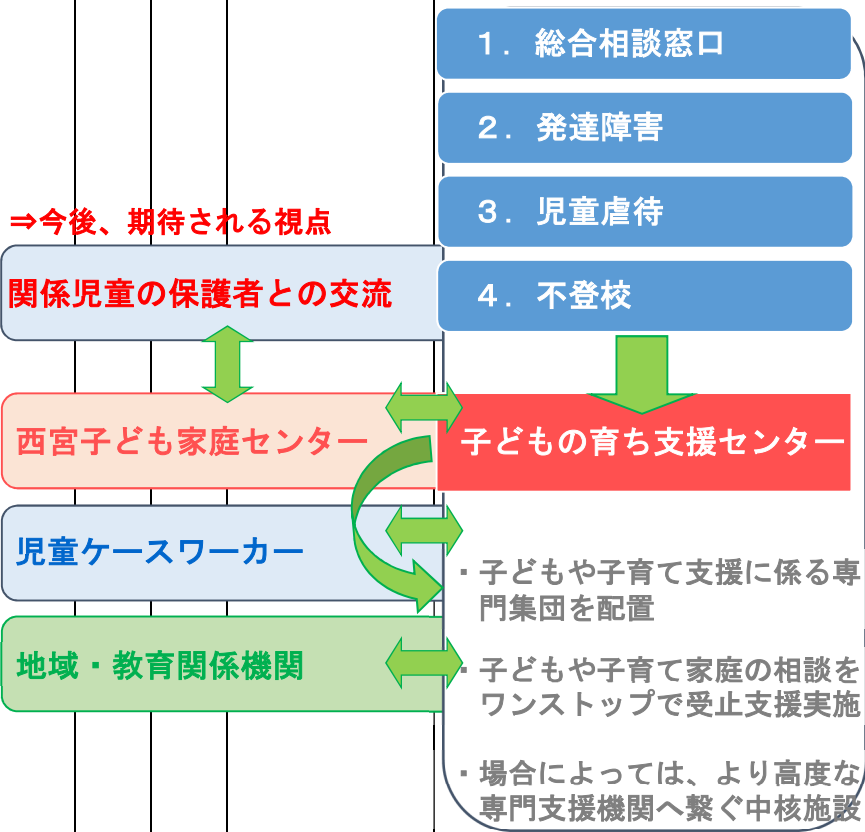
11 23

東園田町会
館

第23回園田まちづくり委員会
あまがさき・ひと咲きプラザ
（旧聖トマス大学跡）の施設
⇒子どもの育ち支援センター
[子どもの育ち支援センター
担当課：友弘課長]

4人 10人

子どもの育ち支援施策の現状と課題



⇒ユース交流センター
[青少年課：藤川課長]

市立ユース交流センターでの取り組み

1. 青少年施策の拠点施設として

- ① 青少年の居場所づくりと各種青少年健全育成事業の実施
- ② 課題を抱える青少年への支援
- ③ 各地域における事業の展開

⇒今後、期待される施設機

国際交流の場としての視点

2. 学びと育ちに関わる市民・団体の交流の場として

⇒みんなの尼崎大学と学びと育ち研究所
[尼崎大学・学びと育ち研究担当課：立石課長]

みんなの尼崎大学

1. みんなが先生・生徒・どこでも教室

- ① まちじゅうをキャンパスに見立てて
- ② 「学び」をキーワードに、人や活動をつなぐプロジェクトを推進


協働のまちづくり

1. ひと咲き・まち咲き・あまがさき

- ① 安心して子どもを生き育てられるまちへ【子どもの育ちと活動への支援】
- ② まちの魅力を生かした「にぎわいと交流の創出」【地域の稼ぐ力を引出す観光地域づくり】
- ③ 進化する教育 学力も、社会力も【学びの先進都市の推進】
- ④ 喫煙マナー、自転車マナーさらに高めま【市民と共に取組むシティプロモーション】
- ⑤ 学びと活動が循環する地域へ【自治のまちづくりの推進】

	12	23	若王寺福祉 会館	第24回園田まちづくり委員会 尼崎市・園田地域の保育施設 ⇒保育施策事業の現状と今後 [保育施策推進担当課：山根 課長] [こども施策課：清水 課長]	4人	15人
<p data-bbox="213 857 517 904">「ありたいまち」</p> <p data-bbox="245 1016 501 1048">(資料) 尼崎市総合計画</p>			<p data-bbox="635 398 1107 434">「ありたいまち」と主要取り組み</p> <p data-bbox="612 492 1123 528">1. 持続可能なまちづくりに向けて</p> <p data-bbox="587 568 1123 604">① 「ファミリー世帯の定住・転入促進」</p> <p data-bbox="612 716 1187 752">1. 人・子どもの育ちと活動を支援する</p> <p data-bbox="612 819 1091 855">2. 市民の健康と就労を支援する</p> <p data-bbox="612 909 1123 945">3. 産業活力とまちの魅力を高める</p> <p data-bbox="612 999 1059 1034">4. まちの持続可能性を高める</p>			
			<p data-bbox="587 1093 1107 1128">尼崎市子ども・子育て支援事業計画</p> <p data-bbox="619 1164 1123 1200">教育・保育に係る確保方策（供給）</p> <p data-bbox="619 1254 938 1290">① 小規模保育事業の新設</p> <p data-bbox="619 1335 916 1370">② 私立保育園の改築等</p> <p data-bbox="619 1415 1043 1451">③ 認定こども園への移行や改築等</p> <p data-bbox="619 1496 995 1532">④ 企業主導型保育事業の設置</p> <p data-bbox="619 1576 1123 1612">⑤ 備品及び施設改修費等補助事業の実施</p> <p data-bbox="619 1657 884 1693">⑥ 認可保育所の新設</p> <p data-bbox="619 1738 938 1774">⑦ 公立保育所の民間移管</p> <p data-bbox="619 1818 884 1854">⑧ 公立保育所の改築</p> <p data-bbox="619 1899 938 1935">⑨ 定員の弾力運用の実施</p> <p data-bbox="619 1980 1267 2016">⑩ 年齢別定員の変更による公立保育所の受入児童数増</p>			

多様化する保育ニーズ及び環境改善、高まる保育需要、保育士不足への対応の方向

市内の設 市内の保育施等				今後の対応の方向性		目的	
公立保育所		<ul style="list-style-type: none"> 計画的な民間移管の推進 残る公立保育所の建替えの推進 児童の受入枠の拡大 				待機児童の解消 (保育ニーズの充足)	
私立保育所		<ul style="list-style-type: none"> 改築又は大規模改修への支援 保育所の新設 定員増を行う保育所への支援 新卒保育士への一時金支給等 				保育士の確保 (保育の量の確保 保育の質の向上)	
認定こども園		<ul style="list-style-type: none"> 認定こども園移行の際の支援 保育定員増を行う認定こども園への支援 新卒保育士への一時金支給等 				保育施設の 老朽化対応 (安心・安全で質 高い保育の提供)	
地域型保育事業		<ul style="list-style-type: none"> 地域型保育事業の設置促進 新卒保育士への一時金支給等 					
31	1	27	富田高安 記念会館	第 25 回園田まちづくり委員会 園田地域の水害（内外水氾 濫）と洪水対策⇒ 総合治水 [土木部河港課：新田係長] [下水道課：松下係長・松森 係長] [猪名川河川事務所工務 課 専門職：川西]	5 人	10 人	
<p style="text-align: center;">尼崎市総合治水対策基本ガイドライン</p> <p style="text-align: center;">「川の水位情報」と「川の防災情報」統合表示</p> <p style="text-align: center;">1. 通常水位計・河川カメラの情報追加</p> <p style="text-align: center;">危機管理型水位計に加え、通常水位計や河川カメラ が同一画面に表示されます。</p> <p style="text-align: center;">2. 水位計のアイコン着色で水位の上昇状況確</p> <p style="text-align: center;">リアルタイムの河川水位に対応して表示の色が変化 し、危険度がわかります。</p> <p style="text-align: center;">3. 河川カメラの情報追加</p> <p style="text-align: center;">河川カメラのアイコンを選択することで河川の状況 が簡単に見られます。</p>							

		2	24	下食満 福祉会館	第26回園田まちづくり委員会 園田地域の都市計画を再認識 まちづくり基盤⇒防災・観光 [都市計画課：岡本係長・ 渋谷・井上]	10人	20人
--	--	---	----	-------------	--	-----	-----

わたしたちのまちづくり

尼崎市は、戦災復興、人口増加、公害問題、産業衰退、台風や地震、鉄道事故など多くの課題を乗り越えてきました。
課題を乗り越えるために、市民・事業者・行政は常に新しいことを「学び」ながらまちづくりに取り組み、暮らしやすいまちをつくってきました。
尼崎市では、新たな総合計画で将来の「ありたいまち」を掲げ、それに向かってさまざまな分野でまちづくりに取り組み始めています。その中のまちづくりとして、都市計画は重要な役割を担い、市民生活に深く関わっています。「2015 都市計画読本」をきっかけに、多くの方がまちづくりの入り口に立ち、そこから色々な分野のまちづくりへと関心が広がって行く事を願っています。

都市計画マスタープラン

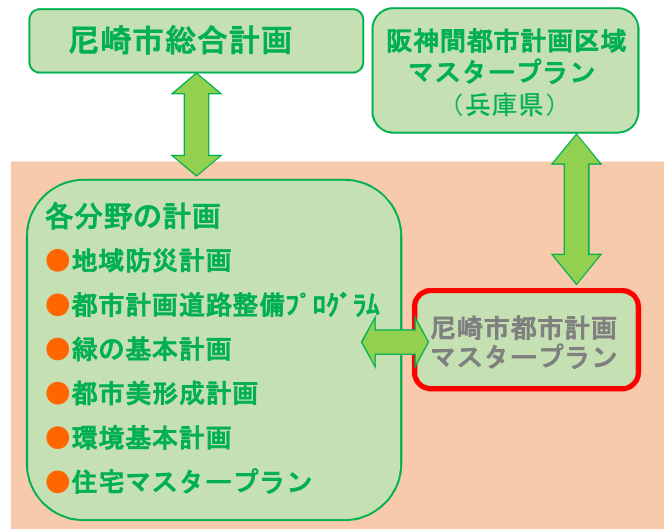
●どんなもの？

「都市計画に関する基本的な方針」です。土地の使い方や交通、環境、防災などの各分野の目標や、地域別の目標を示し、是からの10年間に目指すまちの将来像をまとめています。都市計画の「総合カタログ」とも言えます。

●役割

都市計画分野のまちづくりの目標を掲げ、みんなが同じ方向を向いて「協働のまちづくり」に取り組めるようにしています。

●その他の計画との関連

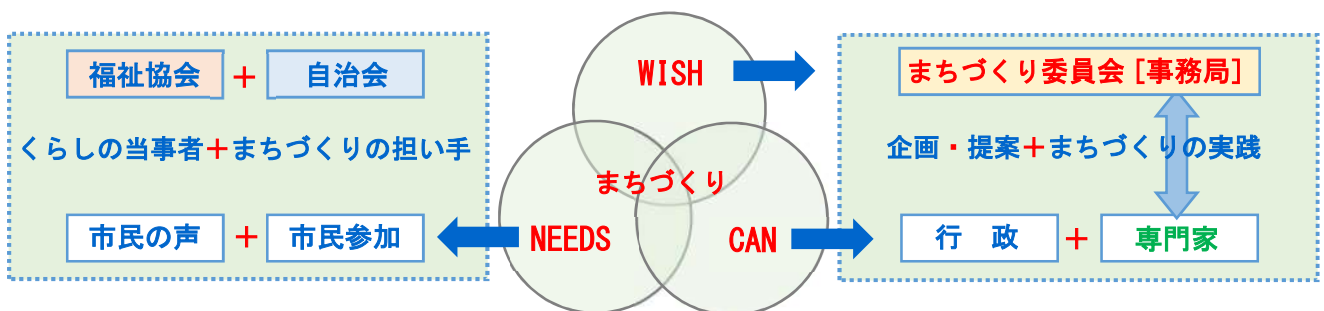


		3	24	園田公民館 市民が関る訳 地域を考える ↓ まちづくり	第3回総会 一部「園田まちづくり会議」 「講話とワークショップ」 講師：岩木 啓子 『園田まちづくり・ワークショップ』 二部「通常総会」 事業報告・会計監査報告・他 『まちづくり・ガイドマップ』 ① 防災②観光③まちづくり 【園田のまちをプロモート】 事業予定	15人	50人
--	--	---	----	---	--	-----	-----

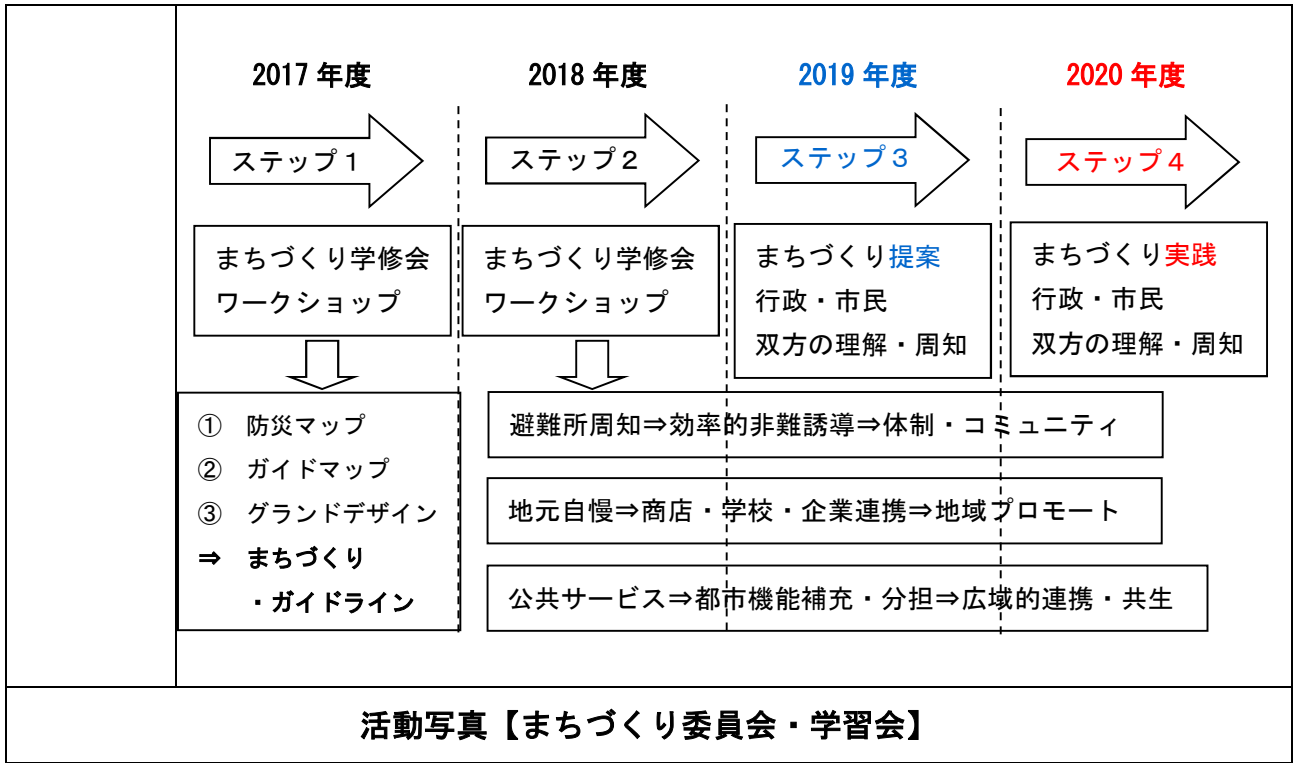
ワークショップ【体験型学習・まちづくり工房】結果情報の共有

Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8
今の気分は	地元地域の 良い所・好 きな所	地元地域の 悪い所・嫌 いな所	地域・暮し で将来への 不安	まちづくり で取り組み たいテーマ ・領域	まちづくり で取り組む 際の強み・ 弱み	まちづくり で具体的に 取り組みた いアイデア	意見交換の 感想
爽やか 上機嫌	駅近で便利 桜並木の街	駅周辺街区 駅前未整備	住宅人口減	町会館建替	議員在籍数 行政と連携	堤防の整備 駅前の開発 [→ローリー]	話合う意義 言葉の効力
複雑	人の繋がり 思いやり	電気屋不足 ホテル必要	水害対策	堤防の強化	住民の連携 新旧住民間	話合える場 コミュニティ作り	同様の思考 相互の協力
爽やか	自然が多い	飼犬の散歩 飼主のマー	住民の繋り	自治会充実	人口の増加 [ペットカ ン] リーガ ー不在	祭りの復活	真剣に参加
勉強したい	公園が多い	ゴミが多い 駅前未整備	水害	町会館建替	市議員 4 名 町会の運営 [役員不在]	勉強会強化 [回数増加]	良かった
楽しみ	郷土園田愛 思い入強い	新旧住民間 旧村排他性	モラル低下	交流場作り [団体交流]	各団体交流 新旧の交流	まちづくり 委員会取組 活発な運営	良かった
	豊かな自然	堤防・水害	少ない観光 資源	交流活発化 [住民交流]	生活利便性 行政と連携	自治の活動 より活発化	共通の問題 課題を認識
興味津々	自然が豊か	公共の交通 バスが不便	活動の後継	インフラ 整備 高齢者優先	自然環境 行政主導型 [一方通行]	地域交流 [意見聴取] 行政と交流	まちづくり 園田の将来 提案の機会
平静	自然が豊か 河川・農地 仲間が多数	堤防災害 ナイター競馬	世代間交流 個人主義的 社会行動	人と人を繋 ぐ町会活動	豊かな自然 活動意識 気運が高い ⇒体験学習 グループ 形成	園田の祭り を繋ぐ⇒イ ベントネット ワーク	意見が発表 できて 講師の意見 も聞ける
不安	歴史・環境	競馬場	住民組織	乳幼児対策	豊かな人材 潜在的 地域の能力 新旧の組織 行政の関り	阪急の高架 コミュニティ復活 [藻川～産 業道路/南 ～北]	多様な意見 確認できて 良かった
初めて経験	地域の纏り	カラス公害	街路の整備 子供の教育	住民間協力	地域を託す 代表者選出 地区別予算	行政と交流 関り増やす	地域に多様 な問題あり
内容に期待	自然環境	社会環境	高齢化	道路整備	昔からの 地域の繋り 新たな参加 の場がない	各自治組織 とのコミュニ ティ・フォー ラム構築	皆の想いを 共有⇒まち を良くする 想いは同じ

	自然環境	閑静⇒街並の衰退	水害	道路行政の転換⇒歩車分離型	豊かな歴史・自然環境 藻川の東西で温度差	環境づくりより良い⇒歩行者優先道路整備	想いを伝え意見を拝聴 ソフト⇒住民 ハード⇒行政
勉強になった	良い住環境	駅前ロータリー⇒未整備	コミュニティの場所	町会館建替⇒早期実施	隣人の繋がり 子育て世代 町会未加入	町会館建替⇒実現	やりたい事 必要な事 できる事
考える良い機会となった	弥生時代～食に恵まれた地域[田能・食満]	尼崎の悪いイメージ⇒園田に影響	少子高齢化 人口減少化	6行政区毎の地域振興⇒園田独自の要望	自然環境 地域特性が活かされていない行政	防災・減災対策 見守り活動の充実	WISH NEEDS CAN ⇒+α
不安	緑が多い 田園⇒閑静	飼犬の糞公害⇒要対策 飼主のマン	県道の開通に伴う⇒交通事故対策	独居老人対策⇒まちづくり	新生児増 老人層増加	安心して住める⇒まちづくり	住民・人の「繋がり」を大切に
不安	区画整理された町	旧村と新住民の町への愛着の相違	子ども会活動の減少化⇒郷土愛	住民・人の「繋がり」を大切に	人口増⇒? 「繋がり」の希薄化	藻川の東西で協力⇒園田行政地区	東西の協力が必要
不安	交通の利便性が良い	人の繋がり⇒希薄 マンション乱立	SNS情報化⇒人間関係 社会構造	行政協働意への識付け⇒行政を取込む手法	まちづくり委員会等の活動 地域の特性が活かされない現状	まちづくり 市民・行政意見交換会⇒意識改革プロジェクト	行政職員に参加して欲しい
	近所付き合いが良い⇒地域の纏り	市役所が遠い	県道の開通に伴う⇒車両台数・流れ等を把握⇒事故対策		自然が豊か 市長を輩出していない [地元から]		多様な意見聞けた
	自然が豊か	堤防⇒水害	観光資源が少ない [尼崎城?]	交流活発化[住民交流]	交通の利便性⇒買物等の社会生活 行政に対する協力度合	自治活動の活発化	共通の問題課題を認識
	静穏な街並 桜並木	参加意識の希薄さ	法律[社会制度]古い	子ども・障害者[弱者]⇒社会視点	新旧世代交代の可能性 町会組織への拘り	障害者の社会参画支援⇒「働き方改革」	多様な思考人材を認識



<p>事業効果</p>	<p>限られた避難所（定員）を周知、効率的な避難行動を誘導する為の社会的秩序と体制（コミュニティ）を計画的に形成して行く際のガイドラインを作成することで、より小さな単位での避難計画等の策定に寄与できた。</p> <p>地元を自慢できる園田の特性を周知し、地域の商店や学校関係、協力企業等との連携を模索、観光の視点でまちの賑わいをプロモートできるようになった。</p> <p>官・民双方の効率的な公共サービスへの理解と周知、都市機能の補充と分担を検討する等、園田地域の広域的連携と共生を考える事で、コンパクトにして住みたいまち・園田モデルを協働提案できるようになった。今後更なるまちづくり情報の発信・充実を図る中、まちの将来像の検証に向けて、段階的に取組める。（企画・プロデュース）</p>
<p>今後の展望</p>	<p style="text-align: center;">「都市計画」と「まちづくり」の連続的一体化</p> <p>都市計画：尼崎市園田地区で、社会的活動を安全に、能率的に、かつ快適に行えるように、必要な空間を合理的に構成し、実現を図る技術[行政施策]。</p> <p>【①土地利用計画・②施設計画（交通・公園緑地・供給処理施設・公共公益施設）】</p> <p>まちづくり：公共施設・住宅・道路・公園・河川敷等を地域社会の中で総合的に計画・デザイン・運営して行く手法。</p> <p>【目的：①防災②福祉③道路・公園④景観⑤環境[水と緑]⑥教育[子育て]⑦住宅】</p> <p>【手法：①住民・地権者主体②身近な生活環境の整備③持続性④地域性重視⑤総合性⑥パートナーシップ⑦個人・団体の啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●まちなみ・景観の保全に関する制定やルール[協定]づくり ●エリア・マネジメント⇒多様な地域形成と活性化を図る/担い手をサポート <p>地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させる為の、住民・事業主・地権者による主体的な取り組み。</p> <p>これまでに学んだことと、培ってきた行政との協働の経験を生かし、防災力の向上や地域の魅力向上を目指して、上記の視点に基づき、市役所等にまちづくりの提案を行っていく。</p>



【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	多世代がふれあい、文芸に親しむ広場づくり・交流広場「すまいる浜風」
団体名	交流広場「すまいる浜風」運営委員会
活動地域	1 (芦屋) 市
協働団体	芦屋市芦屋浜自治連合会 浜風コムスク (芦屋市立浜風小学校コミュニティスクール)
事業の 目的・趣旨	ニュータウンとして存続してきた街を、「成熟したタウン」への再生助力。 都会型「ふるさと」のなかの、世代間交流の場の提供。 (29 年度に実施した各事業を反省反復、さらなる改善を加えながら、 新規事業にも取り組む)
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文芸・技とのふれあい事業 <ul style="list-style-type: none"> 「(唱歌、童謡、歌謡曲) みんなで唄おう会」 「落語を楽しむ会」 「(地域を元気に) 地域の夏祭り、集会所春祭りへの参画」 「(地域を美しく) 花・庭づくり実践教室」 など ・みんなの健康、ふれあい促進事業 <ul style="list-style-type: none"> 「(地域づくりとしての)夏祭り夜店出店」 自治連合会主催へ応援 「(アウトドアへ) 森林浴(秋)ハイキング」 「ハロウィーン イベント参加」 子ども会へ応援、菓子を配布 など ・「集会所 春まつり」 町内地域唯一の協働イベント イベント内で実施 <ul style="list-style-type: none"> 「(作り継ぐ) 伝統の折り紙教室」、 「(可愛いキッズたちの) チアダンス発表会」 「(ジャズ音楽を聴こう) ジャズコンサート」

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数		
						スタッフ	参加者	
事業経過	30	6	12	浜風集会所	「お茶と懐かし映画を 楽しむ会」	7	25	
		7	28	芦屋浜公園	「芦屋浜夏祭り」へ出店 たい焼き店	7	多数	
		8	24	浜風集会所	「みんなで唄おうあの歌 この歌」夏	5	28	
		9	11	浜風集会所	「お茶と懐かし映画を 楽しむ会」	7	24	
		9	20	芦屋浜管理	「社交ダンス教室」	3	6	
		10	9	センター	二日間教室	2	4	
		10	9	浜風集会所	「落語の会」	7	42	
		10	24	〃	「花・庭づくり実践教室」	6	12	
		10	27	〃	ハロウィン行事 浜風小学校 協同巡り	5	133	
		11	2	〃	「みんなで唄おうあの歌 この歌」冬	5	39	
		11	5	〃	「花・花壇づくり実践教室」	6	8	
		11	18	ハイキング	紅葉ふれあいハイキング	7	16	
		31	1	25	浜風集会所	「みんなで唄おうあの歌 この歌」冬	5	24
			2	12	〃	「お茶・名画会」	7	22
			3	24	〃	「春まつり」	10	約250

<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の参加意欲を促すため、従来からのチラシ配布に加え、地域の自治連合会、老人会、子ども会との協働(イベント協力、支援、応援)を積極的に進めて、参加者の増加につながった。 ・地域資源としての伝統を持たない街で、現在の住民の持ちうる力を表出し、当地域を故郷(ふるさと)と呼べるような街づくりの一步となった。 ・高い技芸を持つ有識の住民(又は団体)を我が街の地域づくりの資源とし、かの住民から新しい講師やリーダーが生まれ、新講師と地域住民がふれあうことができた。
<p>今後の展望</p>	<p>今年度は、世話人の減少(退任)が続き、計画した事業を縮小することもあった。もう一度体制の立て直しに注力して、継続していきたい。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	名和夏まつり
団体名	名和小学校校区まちづくり協議会準備会
活動地域	1 (尼崎) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	名和小学校PTA
事業の 目的・趣旨	本イベントは、地元小学校の50周年事業として小学校PTAと地域団体が共催で開始されたイベントで今年で13回目となります。地域の団体と小学校PTAが共に行うイベントは本イベントですが、地域団体と若い世代の連携事業として地域に根付いており、地域活性化の一翼を担っていると考えています。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊り 地域で活動されている団体に依頼し、事前の盆踊りの練習行いました。子ども大人含め2日間で60名の参加がありました。 イベント当日も講師依頼している団体が中心になり盆踊りを開催しました。1日目の土曜日は例年よりも多くの方に参加いただき公園内が人でいっぱいになるくらい盛況に終わりました。2日目の日曜日も例年並みの人を見せました。 ・各種夜店 今年は例年出店している団体が人が集まらないとの理由から出店取りやめが2団体ありましたが、出店していただいたお店は列ができるぐらいの繁盛していました。 ・演奏会 今年初めての取り組みで地元中学校の吹奏楽部と隣保館で活動されている和太鼓の団体に演奏をしていただきました。例年、早い時間は人の集まりが少ないのですが、今年は地元の中学校に協力いただいていることもあり、中学校の生徒やその保護者など多くの方が来られていました。 ・CD「名月姫ものがたり」制作イベント 地域の団体が地域活性化で制作したCDですが、歌を歌っていただいたプロ歌手“Les.R”にボランティアで来ていただきCDのPRをしていただきました。本人が来られていることもあり、名月姫伝説のアピールや、来訪者の増加、地元商店街の活性化につながりました。

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	6	12	長瀬会館	運営会議	10	
		8	9	長瀬会館	運営会議	10	
		8	21	尾浜コミュニティホール	盆踊り練習	5	35
		8	22	尾浜コミュニティホール	盆踊り練習	5	25
		8	25	名和公園	名和夏まつり	60	約 2000
		8	26	名和公園	名和夏まつり 演奏会	60	約 1500
		9	21	尾浜コミュニティホール	運営会議	10	
事業効果	<p>今年の開催日は夏休み最後の休みとなったため参加者が少ないと考えていましたが、当日になると例年以上の賑わいとなりました。今年は例年通り近隣の高等学校に協力を要請し、会場の設営撤去を手伝っていただきました。また今年は新たな取り組みとして、近隣の中学校のブラスバンド部に演奏会をしていただきました。これにより地域の小・中・高の生徒が主体的に取り組むイベントとなりました。子どもたちが運営にかかわる仕掛けを今後も考えていこうと実行委員会で決議しました。本イベントが今まで以上に地域住民に親しまれるイベントとなったと確信しています。これらのイベントを通して、私たち“まちづくり協議会”の活動を知ってもらうことで、若い世代の方たちに身近な団体であることを認識していただけたのではないかと期待しています。</p>						
今後の展望	<p>今年初めて中学校に声をかけましたが、多くの良かったとの意見をいただきましたので、来年も引き続き依頼していこうと考えています。また、小学校の子どもたちに今まで以上に主体的な関わりをもってもらうような仕掛けづくりを考えようとPTAメンバーから意見が出ました。PTAから主体的前向きな意見が出たことは大変喜ばしいことです。一步一步ですが若い世代が地域の団体と関わりをもち、ゆくゆくは地域活動にも参加していただけるような関係づくりをイベントを通して培っていこうと考えています。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	祭りを通した地域コミュニティ形成及び地域の活性化事業
団体名	大市秋の例大祭保存継承実行委員会
活動地域	1 (西宮)市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	樋ノ口盆踊り実行委員会
事業の 目的・趣旨	本団体の主な活動地域である上大市地区・下太市地区・樋ノ口地区は、人気のある地域として住宅開発が進められており、住宅子育て世代が年々増加している。その一方で、自治会活動など地域コミュニティ活動については、子育て世代の増加に比例する形で活性化しているわけではない。ついでには、地域に伝承する文化財(祭り・太鼓台)を通じて、顔の見える関係をつくり、青少年の育成、地域の活性化を図っていく。
事業内容	<p>大市八幡神社の例大祭や樋ノ口地区盆踊り、にしのみや市民祭りなどにおいて、子どもの太鼓体験や太鼓台曳行の実演などを実施し、住民同士のコミュニケーション促進、幅広い世代への地域文化の伝承を図った。また会場内で祭りをPRするポスターの掲出、チラシの配布などを行い、祭りの知名度アップを図り、祭りへの参画を促進した。</p> <p>1. 樋ノ口小学校でのイベント 8/18(土) 「ひのくちの夏 ぼんおどり」に太鼓台展示及び体験会 地域行事として長年親しまれている「ひのくちの夏ぼんおどり」において、子どもが太鼓台に触れることを目的に太鼓の試し打ち体験を行った。 また、当地に残る文化に触れていただくため、委員会メンバー及びイベント参加者で太鼓台の担ぎ上げを行った。 イベント会場では、ポスター掲出及びチラシの配布し、PRを行った。</p> <p>太鼓試打参加者数：70名、太鼓台担ぎ上げ参加者：25名</p> <p>2. 地域への太鼓台曳行 10/13(土)・14日(日) 大市八幡神社例大祭(10/14・15)に合わせて、10/13(土)・14日(日)に地域(上大市・下太市・樋ノ口地区)にて太鼓台曳行を行った。今年度は、地域住民が集う樋ノ口1丁目ふれあい会館や下太市自治会での太鼓台の担ぎ上げを行うなど、地域の方々にも当地に残る文化に触れていただいた。 地域への曳行の際もポスター掲出及びチラシ配布し、PRを行った。</p> <p>3. にしのみや市民祭りへの参加 10/27(土) にしのみや市民祭り(10/27)のだんじりライブに参加した。西宮では数少ない太鼓台であるため、太鼓台の担ぎ上げは珍しく、多くの観衆の注目を得ることができた。また、だんじりライブ後に、だんじりライブに参加していた西宮市内のだんじり及び太鼓台(計6台)で市役所から西宮神社界隈でパレードを行った。道中の特別養護老人ホーム前では、多くの施設利用者の前で太鼓台の担ぎ上げを行った。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	8	18	樋ノ口小学校	「ひのくちの夏 ぼんおどり」に太鼓台を展示し、太鼓の試打や太鼓台の担ぎ上げなどを実施	30	1,500
	30	10	13 14	上大市・下大市・樋ノ口地区	地域への太鼓台曳行	110	2,500
	30	10	27	西宮市役所等	にしのみや市民祭りへの参加	70	1,000
事業効果	<p>ひのくち夏のぼんおどり（8/18）に参加することで、主なターゲットである子育て世代からの認知度を高めることができたように思う。8月以降の大市八幡神社例大祭に伴う地域への太鼓台曳行やにしのみや市民祭りへの参加において、子育て世代の参加者が増加した。</p> <p>実績：平成28年度：参加者 のべ120名 平成29年度：参加者 のべ150名 平成30年度：参加者 のべ200名</p>						
今後の展望	<p>今後も、地域の子育て世代が参加するイベントに太鼓台を参加させるなど、更なる認知度向上及び新たな参加者増加を図っていききたい。また、次年度以降も、継続的に太鼓台を曳行し、地域に根付く文化として継承していく。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	深津子どもの日のつどい
団体名	深津地区青少年愛護協議会
活動地域	① (西宮) 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町:)
協働団体	無し
事業の目的・趣旨	深津小学校内の児童と地域の大人たち(高齢者を含む)との多世代交流を図り、お互いを知ることで、地域活性化や地域安全につなげる。また、子どもたちの為の行事とし、地域愛を育むきっかけづくりとする。
事業内容	<p>【プログラム】</p> <p>① FK バトンチームの演技</p> <p>② 深津小学校の先生によるお楽しみプログラム「中村座」</p> <p>③ PTA による「〇×クイズ」</p> <p>④ 地域ボランティアによる工作教室「作って遊ぼう！コーナー」</p> <p>⑤ 深津青少年愛護協議会会員調理によるカレーライスの振る舞い</p> <p>【参加者】</p> <p>内訳</p> <p>1. 幼児 43 名</p> <p>2. 小学生 254 名</p> <p>3. 保護者 106 名</p> <p>4. スタッフ 35 名 (会員、PTA、ボランティア会員)</p> <p>5. 地域ボランティア 10 名 (小学校校門警備ボランティア)</p> <p>合計 448 名</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	4	14	深津小学校 図書室	役員会にて事業内容決定	15 名	
		5	12	深津小学校 図書室	総会にて事業決定	60 名	
		5	25	深津小学校 理科室	カレーライスの準備	15 名	
		5	26	深津小学校 (体育館・校庭)	深津子どもの日のつどい	45 名	403 名

<p>事業効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化している会員で毎年開催していたこの行事のステージと工作教室を、今回は深津小学校と中学校の PTA が企画を主に行い、新しい内容で開催することができた。 ・ PTA が地域活動に参加することで、若い子育て世代地域の多くの人が小学生を含む子どもたちの為に関わっている事を知ってもらえた。また、子どもたちが地域のボランティアの方々と仲良くしている姿を間近で見て、子どもの育成に良い影響があることを知ってもらえ、地域活動や多世代交流の必要性を感じてもらえた。 ・ PTA からは今後も地域の活動に協力したい意思が確認でき、地域ボランティアの若返りのきっかけづくりになった。
<p>今後の展望</p>	<p>今回、事業に PTA に参加してもらった事で、若い子育て世代に地域活動の一端を知ってもらった事が出来、興味を持ってもらえた。これを、一時的なものにせず地域活動、多世代間交流の必要性を感じてもらえるように、活動の周知を積極的にかつ、持続的に行っていききたい。そして、子どもの手が離れた世代になった時には、今度は自分が地域の子どもたちを守り育てていこうという気持ちを持ってもらえることが、目標である。</p> <p>深津地区は今後急激に子どもが増える地区である。ますますボランティア不足が課題である。今後は、PTA だけでなく幅広い層にも、活動を支持してもらえようような努力もしていきたい。</p>

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	第10回 写真楽園 Club SEI-G 写真展 2018
団体名	写真楽園 C l u b S E I - G
活動地域	1 () 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 阪神間を中心とする地域)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>写真は近年のカメラ性能の向上と軽量、小型化もあって老若男女を問わず、手近な趣味として広がりを見せている。特に退職を迎えた熟年層が増加する中で写真は年齢にかかわらず、取り付きやすい趣味として今後の広がりが予想される。</p> <p>当事業では倶楽部設立における人の意思を尊重した自立性のある倶楽部（倶＝ともに、楽＝楽しむ、部＝仲間）としての趣旨を踏まえ、写真に取り組んでみようという人たちに写真の多様な楽しみ方を知ってもらうため、若者から高齢者まで幅広いメンバーによる1年間の活動成果としての作品出展だけでなく、会期中の写真家によるトークショーや障害のある方の参加などを通じて、来場される一般の方たちが写真を楽しみとするきっかけづくりとして役立てることを図る。</p>
事業内容	<p>主な事業内容は以下のとおり。</p> <p>開催時期 平成30年12月11日～23日（13日間） 開催場所 西宮市立市民ギャラリー 参加者・作品数 78名（昨年62名）、311点（昨年250点） 今回は10年目の節目にあたるのを記念し会場を昨年より広い会場（1.5倍）に変更し作品数の増加に対応した 昨年に続き、障害のある方の作品を展示し障害者施設からの来場を受けた。 新たに「心の街」コーナーを設け、尼崎、西宮、芦屋を題材にした作品展示をした。</p> <p>手軽な楽しみ方としての写真の良さをしってもらうため公開にて会期中以下のような催しを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トークイベント「高橋靖・Sophie 写真を語る」（参加者90名） 高橋氏（シュピーゲル写真協会会長）および Sophie 氏（女性写真家） んによる講演と質疑 ・公開講評会 主催の吉田氏による作品講評

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	9	2	芦屋市民センター	第1回準備会 作品展実施要領の説明と 参加予定者から候補作提出	8	62
		10	14	〃	第2回準備会 出展作品の選定	8	54
		11	10	〃	第3回準備会 出展作品制作指導	8	57
		12	10	西宮市民ギャラリー	会場設営及び作品展示	19	68
			11 ～ 23	〃	写真展開催	6×12 日番	1484
			15	〃	公開講評会	5	50
		16	〃	トークショー	10	90	
事業効果	<p>今回は第10回目の節目と言うことで昨年より規模を拡大して開催を計画したが実際には当初計画（70名）を上回る78名の参加があり、地域活動としての拡大が図れた。出展作品数も311点と計画（300点）を上回った。また時期的に年末近くにもかかわらず、1484名の来場者があった。</p> <p>地域との交流の一環として設けた喫茶のできる談話コーナーを利用し、来場者との交流を図り多くの人たちに写真の多様な楽しみ方を伝えることができた。</p> <p>また今回も障害をもつ方に出展いただき、障害をもつ方の活動を紹介する機会とした。</p> <p>期間中には神戸新聞（阪神版）の記事掲載及び朝日、読売、毎日、サンケイ各紙のイベントランでの紹介のほか地域放送（さくらFM）を通じて地域への情報発信も行えた。</p>						
今後の展望	<p>これまでの実績を踏まえ今後とも地域に密着した文化活動として皆さんに受け入れていただけるものとしていく。そのため作品のレベルアップだけでなく、写真に馴染みの少ない人たちにも写真の楽しさを知っていただける企画を充実させていく。また作品の配置やスペースの使い方などに工夫を加えより多くの方が気軽に楽しく写真に接する場にしていきたい。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	伝統文化にふれてみよう はじめての生け花体験 わくわく教室
団体名	精道コミュニテイスクール
活動地域	① (芦屋市) 市 ② 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	若い子ども世代から年配の世代まで、地域交流を持つ目的の為に生け花という日本独自の伝統文化を次世代の子どもたちに伝承したいという思いをもち、活動したいと思っている、
事業内容	<p>子どもたちや初心者でも無理なくできる生け花教室を行うことになり、より多くの地域の方々に参加していただけるようになった。</p> <p>就業前の子どもたちから年配の方までを対象にしたため、核家族や単身生活の方の人とのふれあいの場としても開けた。</p> <p>当日の流れとしては まず、花を生ける際の心得や花器や剣山の説明、差していく時の順番や形のイメージなど説明を受けた。参加者の想像力を活かし、自由に生けていき、後で講師からの直しをもらい、1人1人丁寧なアドバイスをもらった。花器と剣山に差した状態では持って帰れないため、別の容器とオアシスに差し直し、自宅で飾れるようにした。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	10	27	精道小学校 コミスク室	はじめての生け花教室	5	29
事業効果	<p>当日は就学前の子どもから、小学生、親世代、年配の方まで参加し、多世代での交流をしながら、実施することができた。</p> <p>花の形によって、また花器によって十人十色の生け方があるのだと教わった。</p> <p>伝統文化を教わりながら、地域の方同士顔を合わせ、お話にも花が咲き、効果はあった。</p>						
今後の展望	<p>文化発表会での展示することで、より多くの方が伝統文化に興味をもつていただきたい。</p> <p>このような1日教室を増やし、体験できる場を広げるとともに、地域住民の交流の場の発展につなげていきたいと考えています。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	KANSAI EXCITE KIDS DANCE CONTEST
団体名	尼崎あきんど倶楽部
活動地域	1 () 市 2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町： 京阪神地域)
協働団体	
事業の 目的・趣旨	<p>尼崎あきんど倶楽部のスローガン5つのSHOWのひとつ「翔(しょう)～尼崎の子供達を育み“翔”かせましょう～」に基づく事業として開催。ダンス競技は、普及し始めたとはいえ、他のスポーツと比較し披露の場が少なく、他の地域の競技者と交流する機会も少ない。そのような競技環境を鑑み、本事業では、尼崎のダンス競技に励む子供達に披露の場を提供し、競技者として夢を持ってもらおうと共に、他の地域の仲間との交流を通じて、競技者としても人としても成長を促す青少年の健全育成に資することを目的としている。</p>
事業内容	<p>平成30年9月9日に、あましんアルカイックホール・オクトで開催。当初「KANSAI EXCITE KIDS DANCE CONTEST」の名称で実施予定であったが、尼崎での開催を全面に出すために「AMAGASAKI DANCE CONTEST」とした。</p> <p>【準備】 当日までに4回の会議を開催し、募集方法、審査員・MCの選定、当日のプログラム、スタッフの配置と動き等について協議を重ねた。 競技の参加募集は6月1日よりホームページで開始し、キッズ部門22チーム・一般部門17チームで合計39チームのエントリーがあった。</p> <p>【当日】 当日は、39チーム153名の競技参加、父兄やダンスチーム関係者、一般観覧等の観覧者は347名と会場は満員となった。 内容としては、①会長挨拶、②体幹体操、③キッズ部門競技、④一般部門競技、⑤ゲストパフォーマンス、⑥表彰式(各部門の優勝・準優勝)、の順で実施。 新しい試みとして実施した②体幹体操では、会場の観覧席のうち前1/3程度を収納して体操ができるフロアとし、競技参加者である阪神南地域と他地域の子供達が、交流しながら、またお互いに競争意識を持ちながらダンスを学べるように体操ができるようにした。 また、本事業の企画・運営にあたっては、本倶楽部の若手が主となり、企画を行う実行委員役員を構成したほか、コンテストの当日については、本倶楽部の各世代のメンバー30名がスタッフとして加わり、参加する子供達が力を出し切れるように裏方として励ましながら運営していくことで、本倶楽部としても幅広い世代が取り組むことができる事業とすることができた。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	9	9	あましんアル カイクホール ル・オクト	AMAGASAKI DANCE CONTEST	30	153
事業効果	<p>全 39 チーム・153 名の競技者に参加いただき、日ごろの練習の成果を大きな舞台上で披露してもらい、盛況に実施することができた。アンケートでは、「先日は素晴らしい大会に出場させて頂きましてありがとうございます。メンバー一同素敵な思い出ができました。」「素晴らしい舞台上で踊らせてもらった上に賞まで頂いて本当にありがとうございます！」など、競技参加者やチーム関係者を含め、非常に喜んで頂けたコンテストにすることができた。</p> <p>また、新しい試みの全員での体幹体操を競技者全員で実施したあとも、子供たちは、観覧席を収納したフロアーをそのまま観覧場所としたため、各チームに声援を送りながら、子供たち同士で交流を図ることができた。</p>						
今後の展望	<p>次年度以降についても、競技の発展と交流促進による青少年育成事業として、実施方法の改善を重ねながら本コンテストを継続していく。</p> <p>また、参加者の意見として、もっと賞を増やしてほしい等の要望もあり、可能な限り取り入れながら実施していきたい。</p>						

【事業実施状況を示す写真】



事業報告書

事業名	健康と美容を学んで生かす兵庫県生涯学習インストラクターの会
団体名	生涯学習インストラクターの会 阪神ブロックほっこり和み
活動地域	1 ()市 ○2 地域団体が所在する市域以上の広域 (対象市町：尼崎市、西宮市)
協働団体	なし
事業の 目的・趣旨	コミュニティや高齢者、若い人達とイベントを通して出会いながら、元気になることを目的としています。「イキイキと元気に美しく、澁刺と！学んで活かす！」をテーマに活動中。毎回内容を変えています。これまで実施してきた事業の一例では、高齢者を対象とした、認知予防自主ケアとしてフットケアセルフ、チェアービクス、発声レクリエーションなど。
事業内容	<p>・4月1日(13:00-16:30) 西宮市市民会館 会議室 参加者は20名以上 高齢者&ファミリー向けのイベントを実施 第一部：高齢者を対象としたチェアービクス (講師：生涯学習インストラクター 清谷 善子氏) ・有酸素運動&筋力トレーニングを同時に行うことで筋力・持久性能力の向上を目指した。</p> <p>第二部：高齢者&ファミリー(未就学児)を対象とした歯の磨き方 (講師：平井歯科医院 平井講師) ・生活に欠かせない食事や認知症予防にも効果がある歯を健康に保つため、高齢者や未就学児のための歯の磨き方講座を実施した。</p> <p>第三部：多世代が楽しめるコマの体験会 (講師：独楽愛好家 枇杷絢一郎氏) ・老若男女が楽しめるコマの遊び方を独楽愛好家の枇杷氏から教授。珍しい独楽や木地玩具も持参してもらい子どもたちと高齢者の交流を図った。</p> <p>・5月14日13:00～ 「『食』をテーマにした講演会」 ・現代人が抱える食生活の問題「野菜不足」を解消するために、講師を招き、講演会を実施した。</p> <p>また、第一部～第三部の間、会場にゴールドリボンの募金箱を設置し、イベント終了後、募金を募った。</p>

	年	月	日	場所	実施内容	参加人数	
						スタッフ	参加者
事業経過	30	4	1	西宮市市民会館	講師等連絡調整 会場準備 等	3	20
					イベントの開催 (内容は上記参照)	4	
			5	14	西宮市市民会館	イベントの開催 (内容は上記参照)	
事業効果	<p>高齢者向けのチェアビクスや親子も対象とした歯磨き講座、また独楽の体験会など、楽しみながら体験できるイベントを実施したことで、住民の健康増進だけでなく、世代を超えた交流の場を提供することができた。</p> <p>こうした交流の場を設けることで、孤独死といった悲惨な地域課題の解消にも貢献できたと考えている。</p>						
今後の展望	<p>今後は講座内容をより充実させるだけでなく、一つ一つのイベントの規模を拡大したい。その中でインストラクターや講師とのネットワークを築くことで団体としての基盤を強化したい。</p> <p>平成30年度はこれ以降も講座等を企画する予定である。</p>						

事業報告書
(地域コミュニティ再生・活性化)

事業名	地域で面白いことやってみよう！ ～地域団体の役割とこれからを考える～		
団体名	西宮市地域団体のあり方検討グループ		
団体区分	① 自治会、② 婦人会、③ 老人クラブ、④ 子ども会、⑤ 消費者団体、⑥ 青少年育成団体、⑦ まちづくり協議会、⑧ 自主防災・防犯組織、⑨ その他（地域団体で構成する任意団体）		
1 団体の現況、課題			
<p>当団体はJR甲子園口北側の甲子園口北町町内会及び周辺地域の地域団体有志で構成する任意団体です。阪神淡路大震災で社宅が減り、建物も地域コミュニティも大きく変化し、町内会の役員固定化や加入しない世帯への対応などそれぞれ課題を抱えています。現在近隣の武庫大橋の拡幅も始まり、交通事情が悪化することが見込まれます。中高齢者の割合も増加しています。特に町内会などの任意団体では自主的な活動が求められるため、行政も含め他者が介在することがなくなり、問題点を感じても課題は一部の人たちだけで抱え込まれ、地域で共有されることが少ない傾向にありました。</p> <p>この機会に地域コーディネーターと一緒に取組を見直し、ネットワークを広げ、ワークショップなどの集まりを広く参加者を募って開催し、地域のあり方や住民の幸せな暮らし方を考える機会にしたいと思います。</p>			
2 地域づくりアドバイザーの派遣を要した理由			
活発な取組を実践している団体と地域住民への聞き取りを実施し、現状の課題と課題解決のためのヒントを見つける作業と町内会など各種団体や住民が集まるカフェを定期的で開催して、意見交換やつながりをつくる取組を継続的に行うため、地域づくりアドバイザーの助言を必要としています。			
3 地域づくりアドバイザーの分野、所属・職・氏名			
分野	所属名	職名	氏名
まちづくり・青少年	NPO 法人 人と地域の活動応援団ぽっかぽか	理事長	山本 三千
地域づくり	(一社) エトセトラ	代表	勢登 郁代
広報・パソコン	瓦木地区青少年愛護協議会	副会長	北野 日登美
4 地域づくりアドバイザーの派遣により、達成した事項			
<p>当会で作成した入会案内作成のひな形をもとに、自治会が年間実施している事業の紹介した入会案内を作成し、会員への説明がしやすいように改革した。アドバイザーの意見を参考に会議や運営のやり方を変え、様々な意見を取り入れることにつながった。広報の仕方も工夫することでそうした新たな手法で企画運営されたイベントは大いに盛り上がった。</p>			

	年	月	日	場所	実施内容	地域づくり コーディネーター	
						時間	人数
						事業経過	2018
		7	9	宝塚市仁川	団体情報交換	2	1
		7	20	ポケットハウス 〃	会議の持ち方・連携について 地域課題聞き取り	2	4
		8	3	ぽっかぽかひろば ポケットハウス 〃	PC 活用について イベント企画のポイント 地域課題聞き取り	2	3
		9	15	ぽっかぽかひろば 〃 〃	PC 活用について 交流カフェ(不登校児問題) 地域課題聞き取り	3	3
		9	21	北町	高齢者から聞き取り	2	1
		10	13	ぽっかぽかひろば	役員の役割について	3	1
		11	10	〃	交流カフェ(高齢化)	2	1
		11	13	上甲子園会館 ぽっかぽかひろば	交流カフェ(活動事例紹介) PC の活用について	2	2
		12	15	〃 〃	イベント運営のポイント PC 活用について	3	2
		1	12	〃	イベント運営のポイント	2	1
		1	16	〃 〃	イベント実践 PC 活用について	2	2
		2	9	〃 〃	交流カフェ(イベント反省) PC 活用について	2	1
		3	9	〃 〃	交流カフェ(来年度計画) PC 活用について	2	1
		3	15	ポケットパーク ぽっかぽかひろば	役員事務の引き継ぎについて PC 活用について	2	2
		3	27	〃	総括	2	1
助言・ 指導 内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の進行方法とファシリテーションのテクニック、アイスブレイクの実践 ・ 行事の内容とタイムスケジュールに従った役割分担の仕方 ・ イベントの企画の立て方やヒント。情報の集め方と効果的な広報について ・ 役員交代や新役員の選考方法について ・ 魅力的なイベント企画を具体的に考える。広報誌、チラシを作成する。 ・ SNS やホームページの活用について ・ 文化・芸術といった若者が親しみやすいテーマとそうしたイベントの企画、教育機関との連携の取り方 						

**事業
効果**

定期的に地域や団体の課題を話し合い、モンディアノ解決方法を探る上で地域コーディネーターがリードし、話しやすい環境をつくることで、開放的で効率的な運営についてノウハウを得られた。

地域課題や地域での悩みに関する聞き取りについても地域コーディネーターのアドバイスの元協力して進めたことで、地域課題の発見やニーズを把握できた。

これまで敬遠してきたインターネットによる広報に取り組むことで、若い世代へ地域活動をアピールすることができた。

参考にすべき事例を学ぶことで、既存のやり方に囚われない新たな活動を考えるきっかけになった。

【事業実施状況を示す写真】



兵庫県阪神南県民センター 県民交流室 県民・産業振興課

〒660-8588 尼崎市東難波町 5-21-8

TEL: 06-6481-7641 / FAX: 06-6482-0579